JANUARY 15, 1921. NO. 7605

The Japanese American News

大正拾年壹月十五日（土）第千七百六十五號

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET,
SAN FRANCISCO, CALIFORNIA.
PHONE PROSPECT 238
ENTERED AT S. F. POST OFFICE
AS SECOND CLASS MATTER.
K. ABIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES
IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... 5.50
DAILY.....ONE MONTH 1.00
SINGLE COPIES ..... 5 CENTS
BRANCHES
DENVER, FRESNO, LOS ANGELES, NEW YORK, OAKLAND, OGDEN, PORTLAND, SACRAMENTO, STOCKTON, SAN JOSE, SALT LAKE, SEATTLE, VACAVILLE, WATSONVILLE.

日米

國語教授
當分は必要

日本人國語學校廢止を目的とする法案州會下院に提出さるべき形勢より、國語學校當局は最近者は英語を語らざる可らざるは勿論なり。故に國語學校あるが故に英語教育を施さず、日本人兒童は英語を解せざる米國市民となりつゝあり。英語は米國の國語にして、米國市民たるべき者は、州等の行動に出づる意志なく、何等の理由を說明したりといふ。英字紙團の報道に依れば、ウッド氏は州の官吏にして「立法府に議席を有する議員に非されば直接立法に關し何事も爲し得ざるは明白なり。然れども州全般に亘る學務を管理する地位にある以上、氏に充分滿足、徹底し得るやう國語學校の性質目的を說明し、日本人社會の特殊狀態より來る國語教育の必要を力說し、併せて一般に流布されつゝある國語學校に關する誤解を說き、排日家の曲解を一掃せんと努むるは當然なりなりといふも可し。國語學校廢止法案が果して豫定の如く提出を見るに至るべきや、將た上下兩院を無難に通過し法律たるべきや否やは今尚將來の問題に屬すと雖も、今日の形勢より觀て決して樂觀を許さざる問題なり。而して無理無體に該法案の通過を見、國語教授禁止されんか當分日本人の蒙るべき社會的打擊は大にして、引いては米國社會の爲にも一大打擊たらずとは何人も斷言し得ざる所なり。國語學校廢止を主張する排日家は、國語學校は非米國的思想、感情の養成所にして、米國に同化し且米化の實を擧ぐるに故障たるが故なりといふにあり。假りに國語學校にして、米國市民たる日本人系兒童に米國の國是を等閑視する教育を施し、米國の精神、政治原則に反對せる思想を注入し、米國以外に忠勤を勵むべきを敎吹するせば、排日家は恐か全米國人の指彈を受け即時廢止せらるゝも理の當然にして何人も此に反對し得ざる可し。然るに事實は全然斯くの如きものに非ず。排日政略家の攻擊するが如きものに非ず。國語學校當局は常に改良を施し、改善を加へ、米國社會に、消極、積極兩樣の意義に於て貢獻せんことを企圖しつゝあり、何等特に非難に値するものなく、廢止を强要さる可き事實を所持せざるなり。米國に於て、社會教育、移民の米化運動に從事しつゝある米人の言に徵するに、當分外國語の教授は米國社會の立脚地よりして又米化運動の目的より見て必要なるを語りつゝあり。英語は米國の國語にして、米國市民たるは勿論なり。故に國語學校廢止と雖も、日本人兒童は悉く英兒童に英語を解せざる米國市民となりつゝあるせば重大事なり。日本人兒童は悉く英語を語り、何等の不便、不都合を有せざるなり。教育は人類に取て「立法府に議席を有する議員に非されば直接立法に關し何事も爲し得ざるは明白なり。然れども州全般に亘る學務を管理する地位にある以上、氏に充分滿足、徹底し得るやう國語學校の性質目的を說明し、日本人社會の特殊狀態より來る國語教育の必要を力說し、併せて一般に流布されつゝある國語學校に關する誤解を說き、排日家の曲解を一掃せんと努むるは當然なりなりといふも可し。國語學校廢止法案が果して豫定の如く提出を見るに至るべきや、將た上下兩院を無難に通過し法律たるべきや否やは今尚將來の問題に屬すと雖も、今日の形勢より觀て決して樂觀を許さざる問題なり。而して無理無體に該法案の通過を見、國語教授禁止されんか當分日本人の蒙るべき社會的打擊は大にして、引いては米國社會の爲にも一大打擊たらずとは何人も斷言し得ざる所なり。國語學校廢止を主張する排日家は、國語學校は非米國的思想、感情の養成所にして、米國に同化し且米化の實を擧ぐるに故障たるが故なりといふにあり。假りに國語學校にして、米國市民たる日本人系兒童に米國の國是を等閑視する教育を施し、米國の精神、政治原則に反對せる思想を注入し、米國以外に忠勤を勵むべきを敎吹するせば、排日家は恐か全米國人の指彈を受け即時廢止せらるゝも理の當然にして何人も此に反對し得ざる可し。然るに事實は全然斯くの如きものに非ず。排日政略家の攻擊するが如きものに非ず。國語學校當局は常に改良を施し、改善を加へ、米國社會に、消極、積極兩樣の意義に於て貢獻せんことを企圖しつゝあり、何等特に非難に値するものなく、廢止を强要さる可き事實を所持せざるなり。

日本賠償金提供說

▽日本外務省米國に屈服せん

極東關係電報（一月十四日聯合通信）

マニラ着の情報に依れば日本政府は浦鹽斯德にて日本哨兵に殺害されたるラングドン大尉に關し賠償金を提供せんと日本外務省は賠償に提供を考慮中なりと

射殺事件は軍法會議
▽哨兵は軍法會議に於て調査
▽審問し有罪無罪を決定せん

本社東京特電（一月十四日午前十時着）

浦港第十一師團司令部前に於て米國海軍大尉ランドン氏を射殺したる哨兵は軍法會議に附せらるゝ事となりたる間せらるゝか將た問せられざるかは此軍法會議にて決せらるべし

▲陸相及び司令官吊意聲明

陸軍大臣田中義一中將及び浦港派遣軍司令官大井成元中將はランドン大尉遭難事件を深く遺憾とする旨聲明したり

憲政會尙獨立生計を主張

議會再開期も近づき政界は活氣を帶び來れり普通選擧法案は人氣無く憲政會は『獨立の生計』を營むものゝ如き文字に固執し其除外を認めざる爲め野黨普選聯合は絕望の姿なり

尾崎島田等憲政會案反對

『獨立生計』を主張し敎育程度其他の除外例をも認めざる爲め憲政會より提出する普選案には尾崎島田兩領袖外七名の有力黨員反對の意を表明して署名を拒むべし

八幡製鐵所給料値上決行

八幡製鐵所は昨日全職工の給料値上げを行へり

財政經濟會常平倉案贊成

財政經濟調査會は常平倉案を贊成通過したり

日本賠償金提供說

▽日本外務省米國に屈服せん

マニラ着の情報に依れば日本政府は浦鹽斯德にて日本哨兵に殺害されたるラングドン大尉に關し賠償金を提供せんと日本外務省は賠償に提供を考慮中なりと

國務省浦鹽領事に訓電す

國務省及び海軍省着の諸報知に依れば浦鹽斯德日本哨兵の米艦アルバニー號機關長ラングドン大尉射殺に關して日本政府當局者及び浦鹽斯德派遣日本陸海軍司令官が今回の事件起れるを賜る遺憾とし鄭重に吊意を表せるを以て事件は近日無事圓滿に解決せられん

▲國務省浦鹽領事に訓電す

海軍卿タニエルス氏は十三日夕刻國務次官デヴィス氏と會見し浦盬斯德事件に關して意見を交換せり右會合後デヴィス氏は滿盬斯德駐在米國領事マクゴアン氏は事實を詳細に調査して若し日本哨兵側に罪あらば直ちに强硬なる抗議を試むべく訓電せり日本其後の諸報告に依れば日本は謝罪的態度を取れるを以て米國は抗議を試みざるならんと傳へらる

▲米東洋艦隊長浦盬行中止

浦盬斯德射殺事件調査の爲め驅逐艦ハスト號にて上海に急行し巡洋艦ニューオルレアンス號にて浦盬斯德へ向け上海を出發せる米國東洋艦隊司令官グリーヴス提督は事件の眞相究明し圓滿に落着すべき模樣なるを以て浦盬斯德行を中止せる旨海軍省に打電せり（華府發）

米國政府態度强硬

米國政府はラングドン大尉殺害事件に關し賠償を要求する外に今後斯の如き事件の再發を防止すべく日本に强硬なる交渉を試むる筈なりと（華府發）

浦盬事件解決有望
▽米國は日本に抗議せざらん

米國政府はラングドン大尉殺害事件に關し賠償を要求する外に今後斯の如き事件の再發を防止すべく日本に强硬なる交渉を試むる筈なりと（華府發）

日本對米遠慮氣味

浦盬斯德急行を中止せる米國東洋艦隊司令官グリーヴス提督發は依つて主張せらるゝ尙は前記の計畫は內定計畫にて來る六月倫敦に召集さるべき英國植民地會議に於て詳細の最後的決定を見るべしと（國際通信倫敦電報）

日本政府公式に遺憾と聲明

グリーヴス提督發の他の無線電信に依れば日本政府は今回の慘劇起れるを最も遺憾とする旨公式に聲明せりと

▲川原司令官鄭重に吊慰す

グローヴス提督發の他の無線報に依れば浦盬斯德方面出動艦隊司令官川原翌發太郎少將は次の如き電報をグリーヴス提督に送れり

本職はラングドン大尉の不慮の出來事に依つて発たせりとの飛報に接し大に驚きより本職は吊慰の意を發見し得ざるが本職の眞誠なる吊意を受けられたし本職は今回の最も慚愧すべき出來事を深く遺憾とす

尙は浦盬斯德駐劄諸外國使節及び露國海軍武官は同港米國領事館を訪問し深き同情と吊意とを表せりと（華府發）

幣原大使弔意表示

幣原大使は十三日夕刻國務省に國務次官デヴィス氏を訪問し日本政府を代表してラングドン大尉が射殺せられたるを最も遺憾とすと告げたり

▲發砲步哨を軍法會議審問

幣原大使接手の電報に依ればラングドン大尉に發砲せる哨兵は捕縛せられ軍法會議に廻されん尙ほグリーグ提督發の電報に依れば浦盬斯德日本哨兵の發砲は無智に原因すと

▲日米國交の惡影響を虞る

幣原大使接手の電報に依れば日本朝野は今回の事件を遺憾とし之れを重大視し日米國交が之れに依りて惡影響を受けざらんことを希望しつゝありと（華府發）

浦盬の大井中將花環を贈る

米國東洋艦隊司令官グリーヴス提督發の電報に依れば浦盬斯德派遣日本軍司令官大井成元中將はラングドン大尉の遺骸に大なる花環を送れりと（同上）

日本軍の浦盬警邏權問題

東京に行はるゝ風說に依れば米國政府はラングドン大尉銃殺事件に就き抗議する場合に浦盬斯德駐屯日本軍は果して浦盬斯德警邏の權利を有するや否やを確べく今回の事件に關する日米兩政府間の往復文書に既に右の權利問題現る（國際通信東京電報）

英太平洋海軍擴張

英國に於ても日英米海軍縮小必要論行はれつゝあるが他方に於て海軍當局者は太平洋の海軍根據地擴張新海軍根據地設置及び太平洋大艦隊組織を計畫しつゝあり

▲日本領土附近の根據設置

英國政府は濠洲シドニーの新聞ナンの報知に依れば英國政府は濠洲政府と協議して英本國艦隊の一部分を以て太平洋艦隊を組織し之れを收容すべき新海軍根據地を太平洋諸地方に設置するに內定せり倫敦に於ける風說に依れば英國は濠洲北方のニューブリテン群島（註、日本占領の前獨領カロリン群島と濠洲との間）のコクバーンとホーンローへの兩港を要港とし更に西濠洲フリーマンタルに於ける要港を擴張し之れを英國新太平洋艦隊の根據地とする筈

▲濠洲日本と關し神經過敏

英國が太平洋に大海軍を配置して太平洋の支配權を獲得すべしとの說は一旦緩急ある場合日本の侵略を恐れつゝある濠洲人に依つて主張せらるゝ尙は前記の計畫は內定計畫にて來る六月倫敦に召集さるべき英國植民地會議に於て詳細の最後的決定を見るべしと（國際通信倫敦電報）

在日米人大使候補者排斥

フランク・ヴァンダーリプ氏はモーリス氏の後任として駐日大使に任命されんとの說あり東京在留米人の多くは氏の任命に反對し日本人は歡迎しつゝあり何となれば氏は昨年日本を訪問せる際日米親善を說き日本に對して好意を有することを證明せるを以てなり（國際通信東京電報）

日本駐劄佛國大使決定す

巴里諸新聞の報知に依れば前ブラジル駐劄公使ポールクローデル氏は駐日大使に任命されたりと（巴里發）

墨國革命說

カランサ政府時代に北墨軍司令官なりしフランシスコ・ムルギ

希臘軍土軍擊破

小亞細亞スミルナ地方にて攻勢

印度學生の退學

印度革命當反英運動を煽動しつゝあるを以て英人統營諸學校の印度人學生續々退學しつゝあり（紐育發）

印度學生の退學

印度革命當反英運動を煽動しつゝあるを以て英人統營諸學校の印度人學生續々退學しつゝあり（紐育發）

印度の饑饉

英國印度事務局の報告に依れば印度の大部分は冬期降雨量少なかりしを以て農作物不作にて一地方に於ては饑饉狀態を呈し約七萬七千名の土人は救助を受けつゝありと（倫敦發）

印度新總督歡迎

猶太人系統なるリーディング卿印度總督に任命さるべく決定せりとの報知は印度に於て歡迎せられたりと（倫敦發）

佛國新內閣

佛國大統領ミルラン氏は下院議長ローリベルス氏に去る十二日總辭職せるレニー內閣の後繼內閣を組織すべく依囑せり（巴里）

全米洲勞働會議

墨西哥首府に開催中の全米勞働同盟會議の決議委員は本會議に提出さるべき諸決議案を脫稿せり其決議案には米國のサンドミンゴ占領反對米國對コロンビア共和國巴奈馬地帶讓與賠償金紛爭に關する決議あり（墨都發）

移民局擴張豫算

紐育エリス島移民局擴張費五百六十萬弗桑港移民局改善擴張費百萬弗沙都同額の豫算案十四日議會に提出されたり（華府發）

佛文豪過激贊成

數ケ月來過激主義贊成の論文を發表せる佛國文豪アナトール・フランス氏は佛國社會黨共產派に入黨せり（巴里發）

米陸軍制限と日本
―國防の目標は日本にありと

米國議會に於て（一）上院議員ボラー氏提出の議案（二）上院議員ニューオルレアンス氏提出の議案（三）上院議員ニューヨーク州の常備陸軍人員十七万五千制限案に於て布哇平洋上の陸軍即ち比律賓及び布哇の陸軍の人員を增加し且つ太平洋沿岸の防備を充實せざるべからずと說き主張しつゝあり、加州選出上院議員フライン氏が一昨日ニューヨーク氏案審議中の上院に於て布哇の攻擊は日本を目的とし米國と國防軍中に日本と米國との混血なる日本系兵あり、其軍國の政策及び思想が全然獨逸式なることは否定せざるべからず、陸軍省が常備陸軍廿八萬說を主張せるは主として布哇及び太平洋沿岸の防備を完全にせんが爲めなり」と語れり、

▲軍國主義者は日本を利

軍の縮小は一大錯誤なり、他の議員諸君が如何なる意見を有するも太平洋の彼岸に

▲戰前の獨逸の如き軍國

あり、其軍國の軍隊は獨逸式訓練を受け、其軍國の政策及び思想が全然獨逸式なることは否定せざるべからず、陸軍省が常備陸軍廿八萬說を主張せるは主として布哇及び太平洋沿岸の防備を完全にせんが爲めなり」と語れり、

▲一日緩急あ

場合に危險なり、太平洋上に好戰國あり故に米國は强大なる陸海軍を有して陸軍の制限に反對しつゝある陸軍省當局者及び議會の

▲軍國主義者は日本を利用し日本をだしにして大陸軍策を主張しつゝあり、加州選出上院議員フライン氏が一昨日ニューヨーク氏案審議中の上院に於て布哇國防軍中に日本と米國との混血なる日本系兵あり、其軍國の政策及び思想が全然獨逸式なることは否定せざるべからず、陸軍省が常備陸軍廿八萬說を主張せるは主として布哇及び太平洋沿岸の防備を完全にせんが爲めなり」と語れり、

▲一日緩急あ

場合に危險なり、太平洋上に好戰國あり故に米國は强大なる陸海軍を有

▲フロリダ州選出上院議員フレッチャー氏もニューヨーク氏案の通過は太平洋上及び沿岸の防備の貧弱を意味するこゝと言ふと語り、紐育州選出上院議員ワズワオース氏は『陸軍入隊志願者の每日の平均數は二千四百廿名なりと云ひ、近き將來に於て全國

▲約千の大學

其他の學校は學生に軍隊訓練を施すこゝなるべく從つて一旦緩急ある場合に多數の有力なる將兵を得べきを以て常備軍を縮小するも國防に支障なし」と語れりと。

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.
415-429 Sansome St., San Francisco, Cal.
P. O. Box 3125 Tel. Kearny 1396

新約聖書
小形引照折皮金緣
同 小形折皮金緣
詩篇附
（郵稅）八弗 五弗 二十仙 四弗廿五仙
三弗五十仙 三弗五十仙 二弗八〇仙

舊新約聖書
中形引照折皮金緣
小形折皮金緣
小形総皮金緣
1601 Geary St., San Francisco, Cal.
Tel. West 5361
青木大成堂

THE SUMITOMO BANK, LTD.
(COMMERCIAL)
315-319 California St., San Francisco, Calif.
Tel. Sutter 763
株式會社住友銀行
一本國特別定期預金（利息日下年六分五厘）
從來大阪東京及び種種の當行各店にては特別小口當座預金を創設し出來ぬ事なりまして預金せらるゝ方は大變御不便でありました、それで今回特別小口當座預金の名稱を特別定期預金と改め大正十年一月一日より當行何れの店にても御預り出來る事と致しましたから續々御預入れを御願申します
最初別段に一ケ年として御預り致し期限に御引出しなき時は、更に一ケ年繼續御預入れのものとして當方にては利息を元金に繰入れ其の日に於ける當行所定の定期預金利率に依り利息を附ける事として滿て一ケ年間に每年之を繰返しますから、每年書替への手數もなく復利で餘程御徳になります、尙御不審の事は詳しく御說明申上ますから用捨なく御尋ねを願ひます
桑港支店 桑港カリホルニア街三一五―三一九

列陳日本刊新船便丸斯波
大戰後の世界と日本 徳富蘇峰著
▼大戰後の世界は國際關係を變化せしめたる大事件なり
▼世界の變局 徳富蘇峰著
▼世界の政情を縱橫に論說したる大天下の快著
▼邦人に是非讀まるべからざる重要書物（三弗半）
▼大戰後の世界と日本と併讀せんか更に感興を新くす（三弗半）
▼「月雪」より實力「見ゆるより味ふ」は眞に本書也
▼在留同胞者年頃に渴讀を熱心の一弗八十仙）
▼內實の力 三宅雪嶺著
▼うら若き女子の善心の作北海の雪を背景とした佳作
▼ひなこよみ 小杉天外著
▼著者最近の佳作二十五篇を蒐めて一卷となす
▼家庭の慰藉娛樂には是非本書を讀め（三弗半）
▼出版早々廿八版賣出しは本書の價値を語る（一弗八十仙）
▼地の果まで 吉屋信子著
▼婦人の極意 島田武夫著
北米の五車堂
Tel. West 5488 1098 Post St., S. F. Cal.

小田運送店
ポスト街一七七六 電話フヂモア四六一
朝日運送會社
桑港ブキャナン街一六〇一 電話ウェスト七一七
デユポント商會
食料品雜貨 洗濯用品一切
桑港グリー街一五〇三 電話ウェスト一八三六
日本行汽船切符御申込に應ず
日本御料理 小川ホテル
桑港カリホルニア街六一二 電話カネー一八一六
（郵電）カーフィルド 二一八一 日本行汽船切符販賣 帝國ホテル
羅府東第一街三三一半 551 Pine St., S. F. Cal.
LOS ANGELES HOTEL CALIFORNIA U.S.A.
みかどホテル
331½ E. First St., Los Angeles, Cal.
日本行汽船切符取扱（電話）二一七〇四

預金總額五億一千六百萬圓
資本金一億圓 積立金五千萬圓
預金本通知定期（日歩一錢五厘）
（特別）利息年六分五厘以下
金預定期（六ケ月年三分）（一ケ年年四分）
保護（無利息）
支桑港支店
外國爲替預金送金貸附割引等一般銀行業務一切
日本全國同じノ地へも無手數料
郷里送金 最近便ニテ發送
横濱正金銀行

STATE LIBRARY, SACRAMENTO, CAL.

九ケ年間を亘る米國生活の斷片一二三

日米兩大學の政治教育觀と實際
米國の學生は實際政治に參與す

（十一）　XYZ生

陛下政治季節である所から日米或る種の新聞は讃む可らず、雑誌も亦然るの政策を斷行した兩國の學校當局の政治教育觀や學生の政治熱に就て一言して置く事がある。其爲めに帝大學生のき度い。日本では學生に政治に參與する事を許してゐない。直接國稅三圓を納むる者は權利を投じ得る譯になつて居るが、田吾作も一票を投じ得る譯になつて居るが、帝大の學生だるに投票權行使に適當の教育を受け、正當なる判斷を下し得る有識者は投票權を行使し得ない。其後多少なりとも變化を見たと思ふが數年前、當時東京帝大の總長であつた山川博士は最高學府の學生に政治に關係する事を絶對に禁止した計りでなく、一部間に反動思想動き出し種々の急進主義の著書を漁つて讀むやうになつたとの話があつた。隨分急劣な教育政策だなは申すまでもない。帝大の學生だるには國を愛し、丁年に達し多くは國に有識者は投票權を行使し得る廿二三の男子である。教育とは廿二日本臣民の受け得る最高のものを受けてゐる。社會に出れば早晩國家、社會の中堅となり指導階級たる可き運命を有つて居る。各分科中には法科あり、政治科あり、經濟科がある。此等の學生に政治の分るね理由なく、分つてゐるものに政治に關係してならぬとの理由ある筈はない。帝大の總長ともある人間が教育を一本調子にのみ考へて眞の意義を悟らず學生を薫陶する事恰も下女下男の取締りの如く心得るは沙汰の限りといはねばなるまい。

▲大學假より見て昨年度加州農産額は一昨年より減少を示し年末の農産市價暴落は尚更に農産物價格を激減せり加州昨年度の穀類耕作英加數總計は約五百六十四万一千七百英加にて一昨年より九萬七千七百四十英加の減少なりしも収量に於て最一万一千噸の増收にて總収量八百四十三萬七千噸に上れり

▲價格總計　二億四千〇七萬一千弗となり一昨年の總價格三億百七十八萬一弗に比し甚だしき安價なり果物類牧畜は昨年大豊作と稱し能減ざりし尚作物度二百五十三万噸一昨年二百六十九万六千噸其價格南者は二億三千六百九十五萬五千弗後者は二億三千三百九十一萬弗にして此減物のみは加州特産の爲めに世界市價下落に影響せらるゝ所渺なく一昨年の勞働者の缺乏を訴へ果樹園作業に支障を來せしも勞働賃金は一昨年に比し一割五分乃至二割の騰貴を示せり市價は總て下落の大勢に卷き込まれ大変の如きは一ブッシェル九十仙乃至八十仙の安價なるも一昨年に比し七弗高價の九十七弗の割となる由なり瓜、キャベージ類も加州農産物として重要なる地位を占め昨年生産價格は一千六百萬弗に達せり以上三種の農産額總計は昨年度に於て實に四億九千三百二万六千弗の巨額となる尚調査係官は加州農園勞働者問題について昨年度は

◎総産額四億九千三百二万弗

▲降雨量は南加を除き總て不足なりしも灌漑用水は豫想以上に豊富なりき氣候は春期開花時に不順の結果果物類の結實は不成績たるを免れざりき其他果物収量減少の理由として前年度より降雨不足の結果樹衰弱し等の原因もあり

▲収穫時の天候は比較的良好なりしも米、ビンズ類は早雨の害を蒙れり是を総括するに昨年は數年來の雨量不足の結果大豊作と稱し能減ざりし他日第四箇々の英加數収量等は他日第四面に發表する機あるべし

◎昨年加州農産の總勘定

穀類は増收で價格に於て減損
特産の果物瓜等は影響尠なし

加州農産物昨年度産額については已に屢々方面の調査報告等を紹介する所あり殊に今回更に加州農務局と合衆國農局者の協力して調査を完了し最正確なりと信ずべきを報告として發表せざる所のものを提受し故意復の嫌あれども左に紹介すべし

◎獨身者は炙案

◎一弗乃至五弗の徴税

大統領任命の聯邦家賃委員クラテイラー夫人は今日議會下院に獨身者課稅案を提出した▲下米國に於ける一人暮の家族は一万人に付一弗乃至五弗の割合で課稅すると實に二千萬弗以上の財源になる▲同夫人の計算に依ると廿八十五萬人を初めの六十五歳以上の十五万人には五弗を課すべしとある（十四日華府發電）

◎州教育當局に會見陳情

桑港日本語學校の實狀其目的等を州日本語學園協會代表者として米日本語學校の實狀其目的等を州當局に陳情し正當なる理解を得る爲め十三日夫人同伴櫻府に出氏は目下多忙であり一週間後州張し州教育總監ウッド氏に會談し來れるが其談に曰く『最近ウッド氏の出桑した際會談を處水曜日から會談するといふ事でしたので其前日に櫻府に行きウッド氏の下役の人に會談した處ウッド氏は多忙で會談出來ないとの事でしたが加州教育會幹事チェンバレン氏の紹介狀を所持してゐたのでウッド氏は十三日朝會つて呉れました。初め非常に

▲多忙だと云つてゐましたが私が一九〇三年から日本人兒童を世話し私のポーイスカーは五年以上になる古參部隊の一つで大戰には六人の軍人を出した處其後熱心に話を聞いて呉れました。然し同書を當いて來ました、是と同樣過去數ケ月間に澤山の日本人が歸國したが之等は皆花嫁を伴れて歸つて來るのだが之れは移民法で認められてゐる相であるから重稅を課さんとするものにて所有土地は一千英加に限らるゝとのもリースは二千英加まで許可すとありバア氏は曰く『加州は

◎十年ぶりの端書

▲日本から米國迄

當地ナチャーレフエンレス氏の妹ミセス・ヒルトンがカッソン夫人の手に神戸から郵便葉書が届いた、それは一九一〇年の十一月に神戸を出たもので『太平洋を横斷して同地に着くまでに惑く分れ十年以上も識月を費し、てゐたと云ふので常地附近では昨今大評判になつて居る（モンタナ州ヘレナ發電）

◎結婚の爲め日本人歸國

▲エキザミナーの報道

昨日のエキザミナー紙は『日本人結婚の爲め母國へ親到』と題して曰く『祝關の移民官の云ふ處に依ると寫眞結婚が禁止せられたので日本は此州の日本人增加を計る爲め』

▼他の方法を撰んだ、彼等は日本へ結婚の爲めに歸つて逸早く次の船で便を取り花嫁を伴れて歸つて來るのだが之れは移民法で認められてゐる相であるから重稅を課さんとするものにて所有土地は一千英加に限らるゝとのもリースは二千英加まで許可すとありバア氏は曰く『加州は櫻府に來て居り今後問題に就ては南加と歩調を一にして進む事になりました』

◎東京地下鐵道

東京地下鐵道三十哩布設計畫進行

目下進行中なる東京地下鐵道會社にては試驗の結果東京の土壌は地下鐵道に適すと發表せり同社は最近資本金一千萬圓より八千萬圓に增資したり若し此計畫遂行されば東京最初の地下鐵道東京に出來る譯なり同社は米國及び佛國技師を招聘すべし（國際通信）

◎土地所有高制限案出づ

一千英加以上禁止

州上院議員の提案

上院議員のバアキット氏は一昨日州會に對し『個人と會社とを問はず一千英加以上の土地所有を禁ず』との

▼夫婦連れの一隊を發見

したが今日入港するコレア丸でも來る、此方法で日本は加州の日本人を增殖させる計畫を支持したのだと某政府當局は云つて

▼地主と小作人の州になつつあり若し地主等にして何等か善事を爲さんとせば是等の莫大なる土地を分割せざるべからやず多くの人々を土地所有者たらしめよ』と然れども本案の州の會に於ける運命は頗る疑問なりと云ふべし

◎日本協會に不入

紐育の金持息子で加州日本人問題を視察して歸つたヴァンダービルト氏は過日本紙で紹介した様な『白人の加州』を書いたが紐育の日本協會から會員になつて呉れと申し込まれ有難いがお斷りするとし入會しなかつた

◎桑港協和會總會

十三日午後六時新年宴會を兼ね會新樓にて定期總會開會役員選擧を行ひ左の通り決定したりと

▲會長市愚喜一郎▲幹事清田國▲理事藤本軍岸中野四村▲會計秋葉

◎桑港日本人會

十三日午後三時新年宴會を兼ね會新樓にて定期總會開會役員選擧を行ひ左の通り決定したりと

▲會長市愚喜一郎▲幹事清田國▲理事藤本軍岸中野四村▲會計秋葉

◎日本人會

紐育の日本人會は申す迄なく米國の方が遙かに米國の方が故に米國に國を賞揚するの譯である。無論人間界の現象であるから一長一短は免れ難く米國の政治教育にも理想的でない點もあれば誤謬もある。然し日本よりは確かに進歩してゐる

米國は普通選擧の國であり歸人參政權すら成功した國である。丁年に達すれば身分、職業の如何に關せず一票を投ずるの義務と責任とを有つてゐる。學生なるが故に政治に關與し得ずとの規定なく軍人を雖も投票し得るのである。隨つて學生でも決して無意義の投票をしない。十分に政治、社會、經濟上の實際問題を對照して考へた上に動く。少々日本の方を非難したが其筆で米國の方を進めると勢ひ米國を賞揚するの譯になつて來るが余は政治教育は米國の方が遙かに進歩してゐると考ふるが故に米國を賞揚するのである。無論人間界の現象であるから一長一短は免れ難く米國の政治教育にも理想的でない點もあれば誤謬もある。然し日本よりは確かに進歩してゐる

米國は普通選擧の國であり歸人均は廿四位であつた。投票の二三日前迄であつた。教授會は、投票は米國市民の義務であり特權である諸君の中に何人が投票しに來るか、此方法で日本は加州の日本人を增殖させる計畫を支持したのだと某政府當局は云つて

▼夫婦連れの一隊を發見したが今日入港するコレア丸でも來る、此方法で日本は加州の日本人を增殖させる計畫を支持したのだと某政府當局は云つて

▼地主と小作人の州になつつあり若し地主等にして何等か善事を爲さんとせば是等の莫大なる土地を分割せざるべからやず多くの人々を土地所有者たらしめよ』と然れども本案の州の會に於ける運命は頗る疑問なりと云ふべし

◎日本協會に不入

紐育の金持息子で加州日本人問題を視察して歸つたヴァンダービルト氏は過日本紙で紹介した様な『白人の加州』を書いたが紐育の日本協會から會員になつて呉れと申し込まれ有難いがお斷りするとし入會しなかつた

◎桑港協和會總會

十三日午後六時新年宴會を兼ね會新樓にて定期總會開會役員選擧を行ひ左の通り決定したりと

▲會長市愚喜一郎▲幹事清田國▲理事藤本軍岸中野四村▲會計秋葉

◎日本人會

紐育の日本人會は申す迄なく米國の方が遙かに米國の方が故に米國に國を賞揚するの譯である。無論人間界の現象であるから一長一短は免れ難く米國の政治教育にも理想的でない點もあれば誤謬もある。然し日本よりは確かに進歩してゐる

米國は普通選擧の國であり歸人均は廿四位であつた。投票の二三日前迄であつた。教授會は、投票は米國市民の義務であり特權である諸君の中に何人が投票しに來るか、此方法で日本は加州の日本人を增殖させる計畫を支持したのだと某政府當局は云つて

◎日本人會改造卑見

（上）

人選の革進＝内容の充實＝
經濟の獨立＝團體の一元生活

蘇生佛

舊臘日米紙を藉りて日本人會改造の必要を提唱した私は『如何に改造すべきか』の意見を述ぶべき義務あるべきか』の意見を述ぶを以て再び日米紙を汚して、愚案を公にし大方の士と共に研鑽せんと欲す。

一、人選の革新

改造の第一は人選の革新であるどんな完全な制度、組織を有すとも其の運用に人を得ずんば決して實績は擧がらざるべし。換言すれば、人選宜しきを得れば其の制度や組織に多少の缺陷あるとも其効績や見るべきものあるべし。之れを各地日會の實際に見るに、少數の會員を除きては何れも十年餘りの久しきに亘り、所謂元老古參と稱する同一人が『既定の候補者』を立てし選擧人の自由意志を强制するの形跡の在りしことは否定すべからざる事實なり。若し覺醒せる會員が自由意志に依つて新人の選出をなさんか、必ずやこの一大紛擾の發生しことは、幾多の日日會の有する歴史的事實なり此の點に關して所謂元老古參と稱する人々及び之れを擁護する所以の人達の一大反省を求むる所なり。世襲的畜生的の弊害や此に之れを說くべく餘りに明瞭なり。徒に確然たる新文化に誇る米國に生活する吾人は、遠かに其の弊風より脱出して、新文化の實體を掴まざるべからず新民主主義の思想の上に立脚した團體生活を營まざるべからず。之れ吾人が日本人會の役員に新人の選出を希望する所以なり。かく言へばとて決して元來の地位を占有し來り、年々歳々機械的に形式の役員選擧を繰返し、役員本人も、選擧人其の人々も何等不思議と思はず、平然として過し來りしは實に日本人會の一大奇蹟といふべきなり。徒に年のみ經て重なりて、其の實績の擧がらざる寧當然といふべきか。勿論年々新人の選擧を實行しなりとて必ず効績あるべしとは謂ふ能はざるべし。

◎土地所有高制限案出づ

一千英加以上禁止

州上院議員の提案

上院議員のバアキット氏は一昨日州會に對し、『個人と會社とを問はず一千英加以上の土地所有を禁ず』との

▲地主と小作人の州になつつあり若し地主等にして何等か善事を爲さんとせば是等の莫大なる土地を分割せざるべからやず多くの人々を土地所有者たらしめよ』と然れども本案の州の會に於ける運命は頗る疑問なりと云ふべし

◎日本協會に不入

紐育の金持息子で加州日本人問題を視察して歸つたヴァンダービルト氏は過日本紙で紹介した様な『白人の加州』を書いたが紐育の日本協會から會員になつて呉れと申し込まれ有難いがお斷りするとし入會しなかつた

◎桑港協和會總會

十三日午後六時新年宴會を兼ね會新樓にて定期總會開會役員選擧を行ひ左の通り決定したりと

▲會長市愚喜一郎▲幹事清田國▲理事藤本軍岸中野四村▲會計秋葉

◎日本人會

紐育の日本人會は申す迄なく米國の方が遙かに米國の方が故に米國に國を賞揚するの譯である。無論人間界の現象であるから一長一短は免れ難く米國の政治教育にも理想的でない點もあれば誤謬もある。然し日本よりは確かに進歩してゐる

米國は普通選擧の國であり歸人均は廿四位であつた。投票の二三日前迄であつた。教授會は、投票は米國市民の義務であり特權である諸君の中に何人が投票しに來るか、此方法で日本は加州の日本人を增殖させる計畫を支持したのだと某政府當局は云つて

▼夫婦連れの一隊を發見したが今日入港するコレア丸でも來る、此方法で日本は加州の日本人を增殖させる計畫を支持したのだと某政府當局は云つて

▼地主と小作人の州になつつあり若し地主等にして何等か善事を爲さんとせば是等の莫大なる土地を分割せざるべからやず多くの人々を土地所有者たらしめよ』と然れども本案の州の會に於ける運命は頗る疑問なりと云ふべし

◎日本協會に不入

紐育の金持息子で加州日本人問題を視察して歸つたヴァンダービルト氏は過日本紙で紹介した様な『白人の加州』を書いたが紐育の日本協會から會員になつて呉れと申し込まれ有難いがお斷りするとし入會しなかつた

◎桑港協和會總會

十三日午後六時新年宴會を兼ね會新樓にて定期總會開會役員選擧を行ひ左の通り決定したりと

▲會長市愚喜一郎▲幹事清田國▲理事藤本軍岸中野四村▲會計秋葉

◎日本人會

紐育の日本人會は申す迄なく米國の方が遙かに米國の方が故に米國に國を賞揚するの譯である。無論人間界の現象であるから一長一短は免れ難く米國の政治教育にも理想的でない點もあれば誤謬もある。然し日本よりは確かに進歩してゐる

米國は普通選擧の國であり歸人均は廿四位であつた。投票の二三日前迄であつた。教授會は、投票は米國市民の義務であり特權である諸君の中に何人が投票しに來るか、此方法で日本は加州の日本人を增殖させる計畫を支持したのだと某政府當局は云つて

▼夫婦連れの一隊を發見したが今日入港するコレア丸でも來る、此方法で日本は加州の日本人を增殖させる計畫を支持したのだと某政府當局は云つて

▼地主と小作人の州になつつあり若し地主等にして何等か善事を爲さんとせば是等の莫大なる土地を分割せざるべからやず多くの人々を土地所有者たらしめよ』と然れども本案の州の會に於ける運命は頗る疑問なりと云ふべし

◎日本協會に不入

紐育の金持息子で加州日本人問題を視察して歸つたヴァンダービルト氏は過日本紙で紹介した様な『白人の加州』を書いたが紐育の日本協會から會員になつて呉れと申し込まれ有難いがお斷りするとし入會しなかつた

◎桑港協和會總會

十三日午後六時新年宴會を兼ね會新樓にて定期總會開會役員選擧を行ひ左の通り決定したりと

▲會長市愚喜一郎▲幹事清田國▲理事藤本軍岸中野四村▲會計秋葉

◎日本人會

紐育の日本人會は申す迄なく米國の方が遙かに米國の方が故に米國に國を賞揚するの譯である。無論人間界の現象であるから一長一短は免れ難く米國の政治教育にも理想的でない點もあれば誤謬もある。然し日本よりは確かに進歩してゐる

米國は普通選擧の國であり歸人均は廿四位であつた。投票の二三日前迄であつた。教授會は、投票は米國市民の義務であり特權である諸君の中に何人が投票しに來るか、此方法で日本は加州の日本人を增殖させる計畫を支持したのだと某政府當局は云つて

◎一度御試用の方より又々御注文ある……

葡萄コンデンス

是れなくて何の己れが櫻かな……

◎約ギャロン用料　品質保證付　金二弗五十仙

来國・布哇・東洋一手販賣店

American Condensed Grape Co.（日本人部）

149 California St., San Francisco, Calif.

日本郵船株式會社

東洋汽船　現物賣出

大阪商船

九州鐵道

	參等	前期運賃	最高値	現在相場範圍
式	二等	割三六八圓	一四〇より一五〇圓	
	三等	一割五分	一六〇圓四〇より五〇圓	
	三等	二割	二二五圓七五より八五圓	
	三等	一割六分	八〇圓五六より六五圓	

御注文當日相場通知

日本人投資會社

洗濯見習一名入用　ウエスターン街一五四八　メーカー街五七九　マーク洗濯所

◎物件◎

賃間　日當賃ウエスト五六二六

賣自働車　フォード切完無委任　日米社印鑑鑑々木迄

本年度新茶定價表

大々走り新茶　一斤十五弗
大走り新茶　一斤三弗
大走り鐘入　一斤三弗
同　半斤一弗半仙
同　一斤一弗
同　七十五仙
同　一斤一弗半仙
同　一斤一弗半仙
同　十斤入第五弗
同　十二弗半仙
同　第三　箱五斤入六弗
同　第四　同五弗

相馬園

電話六三一九八

相馬茶店

234 E. First Street, Los Angeles.

ドレスメーカー　屋入度し

絹布商會

羅府東一街二四四

電話一五六九八

御一報次第説明常進呈

草津温泉湯の花

桑港ポスト街一八一〇

水晶印形　甲州堂

1311 Eddy St., San Francisco, Cal.

尋人　若月幸太郎

山田

尋人岸村延衛君

古本高價買入

尋ね人

たし

藤本助十郎

尋人

Japanese Investing Co.
J. H. Suito
309 First National Bank Bldg.
P. O. Box 74 Berkeley, Calif.
Tel. Berkeley, 2377

Tel. West 5977
Taisho Drug Co.
大正藥舗
1601 Post St., S. F. Cal.

◎男女強精　ウエキーアプ　百錠入一瓶五弗、二瓶九弗、三瓶十二弗

最新發見劑男女共に血液の運行を進め精力を增し神經機能衰弱精液缺之貧血より起る諸病を全治する保證藥なり

◎通經保證　イシーフロー　一週分二弗五十仙、二週分四弗半五仙三回分七弗

研究實驗の結果良効確實なる月經劑なり

◎藥局　多年經驗ある日白人藥劑師により桑港ポスト街一六〇一電話ウエスト五九七七

醫者と病人　專門通譯

✚諸病各科專門白人名醫を紹介し藥切に一切のお世話をする、質問隨意、應答無料

▲桑港ブキャナン街一七三一

●鈴木事務所

▲電話ウエスト八一二四

K. S. SUZUKI'S OFFICE.
1731 Buchanan St., S. F. Cal.

本館開業　紀の國屋

本館　桑港サウスパーク八四　電話架設中
分館　桑港ブキャナン街一六一四　電話ウエスト五五四六
84 South Park San Francisco, Calif.
1624 Buchanan St., S. F. Cal. Tel. West 5546

各位の御愛顧に依り從來の旅館手狹に相成候に付き今回サウスパーク八四に本館を新に開業已に諸般の設備完整仕居候間倍蓰御引立被下續々御投宿希上候

館主　汐崎善之助

フォード自動車

日本人部主任　山田友哉

電話　FLYNN & COLLINS　500 Golden Gate Ave.　オークランド　スペクト五〇六　ロ五四九

御菓子卸商　菊屋商店

電話ガーフィルド二一九六　桑港グラント街四一七　電話ガーフィルド二二九八

和洋菓子、時計、寶石類、煙草

財滿・商會

桑港グリー街一五一五　電話ウエスト九二九二

日本行滿船切符取扱

夕田村旅館

館主　田村信吉

日本行滿船切符取扱

藝備旅館

桑港スタクトン街七三八　トンネル口　電話ウエスト五二一五

館主　杉岡岩治

滿船切符取扱　日本ホテル

1551 Laguna St., San Francisco, Calif.

日本行　滿船切符取扱所　山口屋旅館

87 Jackson St., San Francisco, Calif. Tel. Kearny 2437

フェリーより一番近き旅館歸國迎妻者に便利な場所

N.Y.K.

シアトル出帆廣告

△豐橋丸　一月十一日　一月廿二日
△香取丸　同　二月十四日　三月十八日
△德嶋丸　同　三月十四日　三月廿八日
△鹿島丸　同　二月十日　三月十日
△但馬丸　三月十四日　三月廿一日
△諏訪丸　三月十七日　四月一日
△だるぬま丸　四月三日　同十九日

△印船には二三等船室の設備無之候

日本郵船株式會社シアトル支店
409 Colman Bldg. Seattle, Wash.

船名　着　發　日本行

これや丸　一月十四日　一月廿四日　波止場出帆
徳洋丸　一月十七日　一月十九日　貨物船南米行
さいべりや丸　一月三十日　二月八日
天洋丸　二月九日　二月十八日
紀洋丸　二月十九日　二月二十一日　南米行
春洋丸　三月六日　三月十六日
波斯丸　三月廿七日　四月五日
コレア丸　四月十二日
西比利亞丸　四月十六日　四月廿六日
天洋丸　四月三十日　五月十六日

ツクト街六二五　電話サター三九〇〇　東洋汽船株式會社

將來布哇の日本人は中等社會の中堅

……として期待されて居る

布哇に排日問題が差當り無が

一重國籍問題で日本人青年が苦む

親日牧師モーフイ氏視察談

昨年選擧前加州の同胞社會を巡講し廣く同胞に知られた沙港の親日牧師ユー・デー・モーフイ氏は二箇月に亙る布哇巡講を了へて昨日入港の

▲コレヤ　丸で歸桑した、中に往訪した記者に流暢な日本語で語る、私は米國聖書會社から派遣されて渡布し約二ヶ月間啓發傳道の講演をしつゞけた毎日一二回多い時は日に數回位も六封度位減つた始末です、傳道方面よりは

▲米化啓　發講演を主としたので教會以外でも澤山講演した、彼地では日本語學校問題も片附いたので今では日本人間も頗る云ふものも無くなつて排日感情の如きも大に緩和されて居る外國語學校廢止問題の出た時本願寺派其他の日本人は一時は大に驚いて反對したものだが相互に譲歩し合つて

▲解決され、布哇の教育界は意外に進歩してゐる學校の設備も大陸には決して劣らぬ又日本人支那人等の東洋人の教師長び生徒の成績もよいので評判が好い、日本人系米國市民が團結して市民協會をつくり米人市民協會と聯絡を取つて居るが成績が極めて好い、米人市民協會も

▲加州の　夫の如き妙な感情を抱いて居らぬ、何分にも日本人が多いので勢力がある、布哇の行政上にも日本人を無視したやうなことは事實上に出來得ぬ譯で自然と政府當局も日本人の利害關係を顧みると云ふやうなことで圓滿に行つて居る日本人が漸次增加して更に勢力が加はるのは

▲自然の　勢である布哇の日本人社會には宗教心が弱い一般に行儀つて居らぬ日本人が所々にかたまつて生活を營み全く宗教と沒交渉な所もある今少し此方面に力を注ぎたいものである布哇では排日の問題が今も云つた如く差當り無くなつたが例の二重國籍問題で日本人

▲青年達　は苦しめられて居る、日本人系米國市民は米國の兵役を濟ませたものでも日本の兵役に服せなければならず米國と日本で兩國の義務を履行する關係上所謂二心を抱かねばならぬ結果となる、之れは獨り布哇のみならず大陸でもある問題だが布哇に日本人が多いから

▲自己の　國に仰ぐゆは日本人社會に於ては宗教心が弱い一般に行儀つて居らぬ日本人が所々にかたまつて生活を營み全く宗教と沒交渉な所もある今少し此方面に力を注ぎたいものである布哇では排日の問題が今も云つた如く差當り無くなつたが例の二重國籍問題で日本人

▲青年達　は苦しめられて居る、日本人系米國市民は米國の兵役を濟ませたものでも日本の兵役に服せなければならず米國と日本で兩國の義務を履行する關係上所謂二心を抱かねばならぬ結果となる、之れは獨り布哇のみならず大陸でもある問題だが布哇に日本人が多いから

▲自己の　國に仰ぐゆは日本人社會に於ては宗教心が弱い一般に行儀つて居らぬ日本人が所々にかたまつて生活を營み全く宗教と沒交渉な所もある今少し此方面に力を注ぎたいものである布哇では排日の問題が今も云つた如く差當り無くなつたが例の二重國籍問題で日本人

▲青年達　は苦しめられて居る、日本人系米國市民は米國の兵役を濟ませたものでも日本の兵役に服せなければならず米國と日本で兩國の義務を履行する關係上所謂二心を抱かねばならぬ結果となる、之れは獨り布哇のみならず大陸でもある問題だが布哇に日本人が多いから

▲自己の　國に仰ぐゆは

▲自然の　勢である布哇の日本人社會には宗教心が弱い一般に行儀つて居らぬ日本人が所々にかたまつて生活を營み全く宗教と沒交渉な所もある今少し此方面に力を注ぎたいものである布哇では排日の問題が今も云つた如く差當り無くなつたが例の二重國籍問題で日本人

▲青年達　は苦しめられて居る、日本人系米國市民は米國の兵役を濟ませたものでも日本の兵役に服せなければならず米國と日本で兩國の義務を履行する關係上所謂二心を抱かねばならぬ結果となる、之れは獨り布哇のみならず大陸でもある問題だが布哇に日本人が多いから

▲自己の　國に仰ぐゆは

▲加州の　夫の如き妙な感情を抱いて居らぬ、何分にも日本人が多いので勢力がある、布哇の行政上にも日本人を無視したやうなことは事實上に出來得ぬ譯で自然と政府當局も日本人の利害關係を顧みると云ふやうなことで圓滿に行つて居る日本人が漸次增加して更に勢力が加はるの

女優の娘 (十二)

五黄星作

檢死は例の如く行はれた。針場醫學士の豫想は遂つて、矢張り何等の發見もなかつた。要之檢等は、死體發見の模樣自分や神栗や、扨ては死體の素性等を書取つたのを獲物として引揚げるより外は無かつか。

臨檢の警官等が歸つて往くと自分達——神奥や、針場醫學士等は、其所は居殘りの巡査に委せて、直ちに奥の間に夫人を訪ねた。すると其室の安樂椅子に掛けて居た夫人は、一點の血の氣だにないやうな蒼青な顏をして、ぶる〳〵慄へて居た。思ひがけない事件が、思ひがけない場所で突發したのと加之にそれに關聯して、多數の警官やら警察醫やもが訪ねて來たのとが、太く夫人の神經を刺戟したものと見ゐる。

『警察の方は歸りましたか』

夫人は自分達の顏を見るなり直に斯う質ねた。

『漸く歸りました。屍骸の番人として、巡査は一人殘つて居ます』

自分は昂奮し切つた夫人の神經を沈靜せしむべく、强いて笑顏をつくつて見せた。けれども夫れは、結局無益の努力に過ぎなかつた。何故なれば屍骸の番人として、一人の警官が此家に居殘つたといふことは、ヨリ以上に夫人をして昂奮せしむる材料となつたからだ。

『では矢張警察官が此家を占領してゐるのやありませんか、と怖ろしい、而して明日にも此家を、隅から隅迄探すのでしやう、何と云ふ怖ろしい……』

『ハ、、、それは杞憂ですよ、其樣な事は有り得べき筈のものではありません、勿論何か此家に、此の事件に關して、不正行爲でもあると疑はれると、家宅捜索が行はぬとも知れませんが、捜索を受ける樣な嫌疑がないのですもの』

『いゝね然うではありません、斯う申しますと、餘計な神經を病むと仰しやるかも知れませんが、此樣な怖ろしい事が此家の入口で起つた程なんですもの、ですから此末那樣な、怖ろしい事が起りますか……』

『夫人よ、それこそ杞憂を云ふも同じです、せめて死因だけでも解るとも——針場さん死因は何ようしても解らんでせうか、例へば病氣で死んだのだるか、或は何人かの不正手段の犠牲者とかつたのであるとかといふ樣な……』

神栗は小來栖の死因を他殺とでも思つてゐるのか、針場醫學士に向つて斯う質ねて居るのだ。

◆私が若し

男だつたら

〔上〕 どんな職業を希望するか女學生の答

▲答案者の年齢を擧げて見る

十二歳百四十八名▲十三歳百一名▲十四歳三百七十七名▲十五歳三百七十名▲十六歳二百九十八名▲十七歳八十六名▲十八歳十三名▲十九歳一名▲計千六百九十四名

サテ、どんな男を希望してゐるか？と調べて見ると第一位が軍人で六百二十八名といふ多數である、コレは希望といふよりも「これまでの教育の影響」を物語つてゐると見るが適切であらう

第二位は實業家で百六十名、第三位は飛行家の百一名である、派手な職業であるだけに若い女性の心を惹くものと見ゐる、第四位は政治家の四十四名で女學生の口から斯く多數の

▲政治家志望を聞くやうになつたのは時代傾向の一面を表示してゐると見て誤りでない、第五位は「海外に雄飛す」の四十一名である、『學問をする』學者、發明家が各二十數名、醫者が十八名、教育家が十三名、外交官が十二名、文學家が十一名、「金持になる」「慈善事業に」の十名は「國家に社會に盡す」といふ百四十名「自己の業に忠實に働く」といふ三十二名「公益事業を起す」と三十二名「君に忠を盡す」「十三名「男らしい仕事」などゝいふ漠然とした答案の多數にあつたことは未だ答案者自身に何等の考察も行はれてゐない者が多數にあるのを語つてゐる

俚諺正調

妻に洋杖もたしておいてそつと膝から取る坊や

世間話が口說になつて土がほられる杖の先

洋杖握れど握らぬ此手樣の初心

粹なパラソル〳〵る〳〵廻しや主

洋杖忘れた紅葉の茶屋の赤い襷

の戀心

入院隨意 産科、婦人科、外科 ドクトル 中村竹之助 日本病院 内外、小兒科、咽喉科 ドクトル 梁川健雄 桑港バイン街一八一一 電話フキルモア二〇〇四

帝國病院 1629 Post St., S. F. 醫學博士 渡邊恭禮 入院隨意 主任 ドクトル 伊津野房一郎 桑港ポスト街一六二九 電話ウエスト七二六二

桑港公認 大久保齒科醫院 405 Sutter St. Cor. Stockton Mc Laud Bldg. Room 304 Tel. Sutter 7435 齒より來る故障は體內諸疾病に直接原因となるはX光線應用に依り醫學社會の實證なり 平日午前九時より午後五時迄

加州齒科醫會

桑港ゲリー街一五二六 井戸本保之助
桑港ポスト街一七七六 林德太郎
桑港アキヤナン街一四二〇九 小川榮一
桑港ポスト街一五三〇 田中敏太郎
桑港ポスト街一六八四 山本辰雄
桑港アキヤナン街一二六八 谷田部保
桑港サター街一八七七 藤田省三
桑港ポスト街一六二一 木暮篤太郎
桑港ポスト街一二四八四 檜垣登一

桑港公認 齒科醫師 (いろは順)

ウエスト二八三五
ウエスト五二八二
ウエスト八三五〇 (五原堂二階)
ウエスト六八四
フイルモアー一二六八
フイルモアー一二六八
フイルモアー一二六四
フイルモアー一二六〇
フイルモアー一二六〇
フイルモアー一二六〇
ウエスト六八六一

ウエスト二四八四

ウエスト二四八四

ウエスト二四八四

◆フイロキセラ

葡萄害虫豫防法〔三〕

―十萬英加葡萄園荒廢に瀕す苗木運搬前の温湯消毒驅除―

▼加州大學教授の注意書▲

如何なる種類の保險と雖も保險を掛けて當方に利益のなき限り餘計な費用をかける必要がない然らば葡萄のフイロキセラ害虫に抵抗力のある臺木を特に餘分の費用を費して採用するは如何なる場合に利益があるか〻數字を掲げて説明し尤も實際に近き數字を

▲掲載解説し

たいは山々であるが葡萄栽作に地方の氣候と土壤は千差萬別到底一例を示して總ての場合に應用し得る方式は出來ない虫害無被害の臺木を栽培しても農園の善惡適否によつて其樹齢に大差の現はるゝまで止むを得ざる所である今普通葡萄園の生産年數は害虫の襲來なき限り

▲二十ケ年間に生産力の繼續するものと假定する、うれか

ら他の一例として或農園には害虫已に傳播し普通の抵抗力なき葡萄苗を植付くると其樹齢僅か

に十年にて終りを告げるとする此二つの場合を比較して見ると左の如き數字が得られる、普通苗木使用葡萄園

一英加葡萄園創設費用　二百弗
樹齢十ケ年と假定
全利益（六回收穫分）　二百弗
十年間利益總計　四百弗
十年目の損失　四十弗
十年宛利益　二百弗

二、普通苗木使用葡萄園（無害虫）

一英加葡萄園創設費用　二百弗
樹齢二十ケ年と假定
全利益（十六回收穫分）　千六百弗
二十年目の損失　二百弗
二十年間利益總計　千四百弗
一年宛利益　七十弗

三、害虫抵抗臺木苗使用園

一英加葡萄園創設費用　千四百四十弗
樹齢二十ケ年と假定
全利益（十六回收穫分）　三百弗
二十年目の損失　三百弗
二十年間利益總計　千四百四十弗
一年宛利益　七十弗

右は一英加に對する數字である故に以上の如き場合に於ては余分の費用を費して抵抗力ある臺木を採用して利益を見るといふのである然し第二例の如く

▲害虫傳播の危險絶對になく將來も安全であると見なら別に多額の費用をかけて臺木の選擇をやる必要のない事は數字の比較によつて明かに理解せられる此五封度の豚肉を人間が又食料とする目的であるとすれば滋養消化の點に於いて二倍家内労働者務所働き等に從事する

▲人間の食料　とせざるか

▼問題である安いスキムミルクと同率の蛋白質に於ては脱脂ミルクは如何に滋養に富むからて

▼料理用として　るにも限り

ある故に是を製造してチーズの如き固形物として食料とする

チーズは日本人の間には單に臭氣紛々近よるべからざる食物たる以外餘り其營養價等について研究が行屬いて居ない樣である

▲營養價は單　に其含有蛋

白質があるのみでなく牛肉の赤肉と同等の各種養分を含むもの

▲霜害の跡　が明かで外の葉の萎ひたレタース類と共に實質よりは見場を多く害されて居る尚今生長途中にある河下のアスパラガス類も發育を阻害せられただけらうと推察せられる然し降雨が非常に多く今迄の生長具合が良好であつたから少しく霜の害を受けたとしても

▲例年より　は早く市場に現はるるものと豫期せられて居る數封度の走りは已に市場に現はれ尚今週の終り頃から少しづつ出荷があ

◆牛乳と製品（六）

▼自然の滋養食料品として人間の食料にも成人も飲む

百封度の飲料ミルク中には約十二封度の滋養に富む固形物を含有する其ミルク中からバター製造用としてスキムミルク中に白質其他滋養になる

▼固形物九封　留する前にも云ふた通りスキムミルク中からは脂肪を脂肪溶解性のヴアイタミンがクリームと共に取り去られたから缺乏して居る故に人間の食料として利用するには

▲即ち其利用　法としては完全食料とならない

クリーム・ソースを拵へてバターを少し許り入れるとかビスケットを焼いてバターで食べるとする家畜飼養に經驗のある人はスキムミルクの効用を認め小牛ミルクは缺くべからざる飼料として居るが人間の食料として

▼其ま　は

閑却す　る傾きがあるが百封度のスキムミルク中にある乳封度半の固形滋養分を豚に飼給すると五封度の豚肉に製造せられる此五封度の豚肉を人間が又食料とする目的であるとすれば滋養消化の點に於いて二倍分の養分を與ふる譯である普通の家内労働者務所働き等に從事する成人には其

▼人間の食料　とせざるか

▼問題である安いスキムミルクと同率の蛋白質に於ては脱脂ミルクは如何に滋養に富むからて

▼料理用として　るにも限り

ある故に是を製造してチーズの如き固形物として食料とする

チーズは日本人の間には單に臭氣紛々近よるべからざる食物たる以外餘り其營養價等について研究が行屬いて居ない樣である

▲營養價は單　に其含有蛋

白質があるのみでなく牛肉の赤肉と同等の各種養分を含むもの

▲霜害の跡　が明かで外の葉の萎ひたレタース類と共に實質よりは見場を多く害されて居る尚今生長途中にある河下のアスパラガス類も發育を阻害せられただけらうと推察せられる然し降雨が非常に多く今迄の生長具合が良好であつたから少しく霜の害を受けたとしても

▲例年より　は早く市場に現はるるものと豫期せられて居る數封度の走りは已に市場に現はれ尚今週の終り頃から少しづつ出荷があ

◆自動車の話（三）

田島雅樂

千九百十九年度に米國の自動車製造業者が市場に送つた既製重量スキムミルク・チーズの

▲營養價は單　に其含有蛋

白質があるのみでなく牛肉の赤肉と同等の各種養分を含むもの

▲霜害の跡　が明かで外の葉の萎ひたレタース類と共に實質よりは見場を多く害されて居る尚今生長途中にある河下のアスパラガス類も發育を阻害せられただけらうと推察せられる然し降雨が非常に多く今迄の生長具合が良好であつたから少しく霜の害を受けたとしても

▲例年より　は早く市場に現はるるものと豫期せられて居る數封度の走りは已に市場に現はれ尚今週の終り頃から少しづつ出荷があ

●霜害と野菜

數日來の寒氣と霜害の害が桑港市場に出荷せらるる野菜物に現はれて來た南加から出たピーなどは

●穀類共同販賣　二三年來加州穀類耕作者等は共同販賣方面に努力し始め現にオークランドには農會を中心として穀類エレベーターを買ひ入れたそうである尚は彼等の目的とする所は加州内のみならず米國主要地にエレベーターを設し海外輸出會社を組織し穀類を直接外國に販賣し遂には全米國穀類耕作者の大團結を結び以て共同販賣を實行して耕作者各自の利益を保護せんとしつゝある此運動は特に昨年穀類生産過剰と外國輸出不可能となつた爲め加州のみならず全米國に亘つて盛んに唱道せらるゝに到つた

●在日會議　昨紙所報の如く在日會議演日程變更三日會より準備整はざる爲めと社員を組織し穀類を直接外國に販賣し遂には全米國穀類耕作者の大團結を結び以て共同販賣を實行して耕作者各自の利益を保護せんとしつゝある此運動は特に昨年穀類生産過剰と外國輸出不可能となつた爲め加州のみならず全米國に亘つて盛んに唱道せらるゝに到つた

●在日會議演日程變更　昨紙所報の如く在日會議演日程變更三日會より準備整はざる爲めと社員を組織し穀類を直接外國に販賣し遂には全米國穀類耕作者の大團結を結び以て共同販賣を實行して耕作者各自の利益を保護せんとしつゝある此運動は特に昨年穀類生産過剰と外國輸出不可能となつた爲め加州のみならず全米國に亘つて盛んに唱道せらるゝに到つた

●在日會議演日程變更　昨紙所報の如く在日會議演日程變更三日會より準備整はざる爲めと社員を組織し穀類を直接外國に販賣し遂には全米國穀類耕作者の大團結を結び以て共同販賣を實行して耕作者各自の利益を保護せんとしつゝある此運動は特に昨年穀類生産過剰と外國輸出不可能となつた爲め加州のみならず全米國に亘つて盛んに唱道せらるゝに到つた

東京朝日新聞　大阪
東京朝日新聞　大阪朝日新聞

廣島縣
高田郡
御禮廣告
中川誠之助
逐葬の際は遠路御會葬被下又多分の御香奠御贈與相成千万奉感謝候混雜の折柄寸名御伺洩可有之と存候に付此段以紙上厚く御禮申上候
一月十三日
フレスノ
親戚　中重甲之助
友人　一同

二眞佐子
儀病氣の處去一月十四日午前三時死去仕候間此段生前厚知諸君に謹告仕候
葬儀は來る十五日午後二時半マーチン葬儀會社に於て執行可仕候
父　本一
母　同シモ
姉　同静子
友人　山本初太郎
島田初仙吉

◉註文せよ◉
大正九年度の新種子物を代價表は御申越次第無代進呈
新種子物原産地加州ホリスター
山中丈吉（園主）
Hollister Seed Co.
Rt. 2 Box 112
Hollister, Calif., U. S. A.

懸賞捜索廣告
原籍和歌山縣西牟婁郡栖川村字酒草
南野利吉
三十八歲身長五呎五吋
音聲細く目尻下る
三百弗
懸賞金

右は十二月十六日東サンピドロ港に於て靜岡縣人小澤三吉を銃殺せんと謀り重傷を負はせたる故に就ては同下手人を見出し逮捕の効を奮したる者に對し金三百弗を提供す　右有志一同
P. O. Box 543 San Pedro, Cal.

和田爲七
年齢六十四歲
右者當地在オークレー炭坑に就働中去る十二月六日該地館府に於ける莫大の公私用金を消費逃亡致し行衛不明と相成候に就は現所住を確め左記宛御通知の先着者へ御禮として進呈可仕候
ワイオミング州キャマー日本人會
キャマー
P. O. Box 1036 Kemmerer, Wyo.

懸賞尋人廣告
岡山縣兒島郡八濱町大字八濱

忘却せる一事あり
撲造品は本來の實物に如かずフォレーのハネーター藥は風邪氣管症を治す上に於て他の家庭藥の遠く及ばず
W. L. Angin, Antioch, Ill.,
の來狀にはフォレーのハネーターを十五ケ年用ひ風邪の初期には小瓶にて治す麻酔劑を含まず子供は此藥を好む（一の五）

御禮廣告
長男　富義
專多忙中遠路態々御會葬被爲下且つ多分の御香奠御香花を賜り千萬奉感謝候就ては一々參堂御禮可申上候へ共不取敢以紙上厚く御禮申上候
一月十二日
父　森田悅太郎
母　花
弟　八
妻　實
長男　富
親戚　美
友人　中
代　羽
同　栗
同　平
同　大
同　行
同　次
同　道
演岩
口崎
嘉郎

株式會社新亞細亞商會
和洋食料品雜貨商
桑港ポスト街一六五九　電話フイルモア二七九三

HOTEL FUJI
423 Maynard Ave.
Seattle Wash.
妻君御親族御朋望御呼寄の際は前以て御通知被下候へば上陸に關し必要なる事項早速御返答可申上候
シャトル市
メーナード街
四二三
燒瓦造支館二棟タコマ及キャマ旅館各二百室最新設
藤井旅館

MAIL'S SHOE STORE
特に日本人に適ふ樣造りスタイルは望みにより各種他店よりも廉價
桑港フキルモア街一七〇一―一七〇三
（ポストの角）
メール靴店

Henry G. De Roos, Inc.
88—3rd St., S. F. Calif.
寫眞機
娯樂向
寫眞用品一切
寫眞仕上げ、引延、色着け、迅速叮嚀
キャメラ、レンズ等の交換の需に應ず
其他　望遠鏡、眼鏡
桑港第三街八八（電カーネー五四七五）
沿岸最大
ヘンリー、デルース商社
チー、デルース
有馬謙二
社員
（電話）
電話次第市内何處でも御註文伺ひに參ります
市外御註文並に御照會は日本字にて差支なし
發送の迅速、荷造りの完全は本商社の特色

農家の準備
の期節になりました
第一は作物の選定であります
第二は耕地の選定であります
此時附帶して熟考すべきは
肥料の選定であります
THE PACIFIC GUANO & FERTILIZER CO. SAN FRANCISCO, CAL.
HIGH GRADE TRADE MARK
是に對し懇切に御相談に應じ得るは肥料專門商の調組小林商會であります
專門肥料商
小林商會
H. Kobayashi
1449 Buchanan St., San Francisco, Calif.

桑港ブキャナン街一七三一
●かすみ會
1731 Buchanan St., S. F., Calif.

桑港旅館組合
井木旅館
防長旅館
日本ホテル
日米ホテル
北米旅館
田村旅館
近江屋旅館
加州ホテル
名古屋ホテル
南海屋
熊本屋
福岡屋
富士ホテル
永本旅館
安藝ホテル
紀の國屋
ミカドホテル
エビスホテル
廣島屋
桑港旅館組合船客送迎事務所
406 Pacific St., S. F.
電話ドグラス三七九四

キャレーンダーア
廣告用品何品でも
本年は御急ぎにならずとも宜敷値段の事も有ますから
日本人部主任
土屋禎一
桑港ポスト街一五三〇
V. S. Walsh
ADVERTISING CALENDARS,
560 Mission St., San Francisco, Calif.

〔一二六〕

花の繪島　青々園

義理の兄ではあるが、繪島は白井平右衛門の人物を信用しないふ、山村座見物の支拂ひを白井に思はせたくらゐで、あるが、改めて斯いふ手紙をよこされて見ると氣が濟まぬ、といつて宿下りをしてから間もない、又して外泊の眼をもらふのは後めたく思はれる、取分けて清之助や團十郎のことがあるだけに其ういふ遠慮が必要なのである。

斷らないでは惡いし、斷るのもわるい、だから返事に困つて其のまゝに打遣つて置くと、二日ばかり經つて御留守居番の平田伊右衛門が面會したいといふ、取次ぎである、やつぱり白井の招待についての用件に違ひない、と思ひながら廣敷へ出て平田に對面すると果して其ういふ反抗的な氣分になつて、どうしても繪島は其ういふ遊びに行くことを承諾しなかつた

是非とも行くことを承諾するやう勸めてくれと、白井からも自分へ、頼んで來て居るが山村座見物の時に白井が勘定を持つていつたを金丸に支拂をさせたは、今度の招待を繪嶋に斷られては、自分が白井へ對して面目ない、其れにも自分の所でも、此の前に繪島の宿をする筈で家内やゆる心待ちに待つて居たのが、急に城へ歸るとになつたので、皆が本意なく思つて居るから、船遊びの時、此の一家の櫻田御殿このかたの、自分の屋敷で御泊りを願ひたい、と平田が熱心に說き勸めた兄の白井はかりでなく、平田から其う勸められると繪島はもう斷りきれなくなる、よしんば清之助や團十郎のことで此の上何んな噂が立たうが、其れは皆根もないことである、自分にさへ疚しいことがなければ誰が何といつても構ふものか、繪島は其ういふ反抗的な氣分になつて、どうしても船遊びに行くことを約束してしまつた

白井の屋敷は市ケ谷にあるから、船遊びには足場がわるい、何老よりは御不沙汰をいたして居るが今日は此方へ御出でを承つて御血色を拜見に上つたと申すは表向き、其の實は、愚老も船遊びの御接伴をいたしたいので御座る、先づ此處らが醫者の役徳と申すもので御座もう交竹院は何時もの通り飄輕である

義理の兄妹同士が挨拶を取替す交竹院が口を出した

「大奥へ御歸りなされてから愚老よりは御不沙汰をいたして居るが今日は此方へ御出でを承つて御血色を拜見に上つたと申すは表向き、其の實は、愚老も船遊びの御接伴をいたしたいので御座る、先づ此處らが醫者の役徳と申すもので御座もう交竹院は何時もの通り飄輕で

「いやわ〜、御叮嚀な御案内にあづかりまして、有難う存じまする」

義理の兄妹同士が挨拶を取替す交竹院が口を出した

「大奥へ御歸りなされてから愚老よりは御不沙汰をいたして居るが今日は此方へ御出でを承つて御血色を拜見に上つたと申すは表向き、其の實は、愚老も船遊びの御接伴をいたしたいので御座る、先づ此處らが醫者の役徳と申すもので御座もう交竹院は何時もの通り飄輕で

「いやわ〜、御叮嚀な御案内にあづかりまして、有難う存じまする」

義理の兄妹同士が挨拶を取替す交竹院が口を出した

「大奥へ御歸りなされてから愚老よりは御不沙汰をいたして居るが今日は此方へ御出でを承つて御血色を拜見に上つたと申すは表向き、其の實は、愚老も船遊びの御接伴をいたしたいので御座る、先づ此處らが醫者の役徳と申すもので御座もう交竹院は何時もの通り飄輕で

「いやわ〜、御叮嚀な御案内にあづかりまして、有難う存じまする」

義理の兄妹同士が挨拶を取替す交竹院が口を出した

「大奥へ御歸りなされてから愚老よりは御不沙汰をいたして居るが今日は此方へ御出でを承つて御血色を拜見に上つたと申すは表向き、其の實は、愚老も船遊びの御接伴をいたしたいので御座る、先づ此處らが醫者の役徳と申すもので御座もう交竹院は何時もの通り飄輕で

「いやわ〜、御叮嚀な御案内にあづかりまして、有難う存じまする」

義理の兄妹同士が挨拶を取替す交竹院が口を出した

「大奥へ御歸りなされてから愚老よりは御不沙汰をいたして居るが今日は此方へ御出でを承つて御血色を拜見に上つたと申すは表向き、其の實は、愚老も船遊びの御接伴をいたしたいので御座る、先づ此處らが醫者の役徳と申すもので御座もう交竹院は何時もの通り飄輕で

ロスアンゼルス (十二)

●日本人會問題

兩派握手す

平井、湯浅兩氏調停

毎年の名物なる羅府日本人會選擧騒ぎは本年も相變らず激烈なる競爭を演ずる傾向あり一般在留民は目下の排日形勢及び不景氣の襲來に不安を感じ居る折柄とて在留民間の平和を希望し之が調停を望みつゝありしが十三日平井由太郎、湯浅銀之助兩氏の發起の計に革新及び聯合兩派より各五名の代表者の會合を日本倶樂部に催し平井氏より

▲平和の提案 あり兩派代表者は到下の大勢に鑑み熟慮の結果無條件にて兩氏の提案に一致したるが其の決議文左の如し

日本人會選擧問題に關する聯合、革新の兩派は本日各其代表者を派し調停委員平井、湯浅兩氏と共に肝膽相語り羅府在留日本人根本的の平和を希ふ兩派の誠意を代表し該調停者兩氏に全然無條件にて一任委囑するとを各派を代表し責任を帶びて爰に之を決議す

大正十年一月十三日

平井由太郎、湯浅銀之助、波多江昇一、熊本愛吉、堀愛次郎、古川榮二、山下信太郎、谷本正明、中村正敏、伊藤竹次郎、木野民助（以上革新）

湯浅兩氏は特に代表者各五名を選び十四日正午より平井、湯浅兩氏と共に一富士に於て最後の平和決定協議をなすべしと

●家賃制限案

羅市會通過

▲動産の十六パーセント

▲不動産の十一パーセント

羅府市の店子保護協會に於て一年以來市會に横暴なる家主を擊肘上同時に益々膨張せんとする家賃の制限をなすべき法律制定方に付き請願するも市法律顧問の意見として市會には斯かる權能なく且つ憲法違反なりとの理由に及び市會の討議するも何等法律として現はるゝ處なく遂に一般投票により之れが解決を見んとて前記借家人保護協會は率先して養成の署名を取り市當局に提出し規定の敷に達せる旨市會に報告し市會は遂に

▲市會自身例等かの制限法を制定せざるべからざる立場となり居りたるが念々十二日開會の市會に同問題の提出されるに至り

▲再選擧を行ふも原案提出者なるクリスウエル議員は此の際是非家賃制限案を通過せざるべからず若し市會にして該案の通過を拒むが如き事起らば吾人は議員の再選擧を行ふも初志を貫通すべしと主張すると共に從來市會の權能上如何はしとの忠告を試み居たる法律顧問兼議士スチーブンス氏も制限法案の内容及び權限等につき詳細に法律上の見地より說明し若し此の際同案の不通過により再選擧を行ふが如き事とならば四萬弗の費用を要する大金なれば斯かる多額の費用を更らに消費するとなく決議を望む旨述べ遂に議長コナウエイ氏の同案に賛成せるより茲に全く滿場一致を以て家主は自己所有の家屋に對し不動産十一パーセント及び十六パーセント迄の範圍にて家賃を増額し得るとの原案の可決を見るに至りたりと云ふ

●職業稅に注意

▲納期は一月廿日迄

▲未入を問はず昨年一月より羅府市に於ては年四回に分割し廣告代理人、鑑定人、建築家、辯護士、土木技師、歯科醫、彫刻家、意匠家、通辯業者、產婆、音樂教師、看護婦、醫師、獸醫、新聞表者を派し調停委員平井、湯浅兩氏と共に肝膽相語り羅府在留日本人根本的の平和を希ふ兩派の誠意を代表し該調停者兩氏に全然無條件にて一任委囑するとを各派を代表し責任を帶びて爰に之を決議す

大正十年一月十三日

平井由太郎、湯浅銀之助、波多江昇一、熊本愛吉、堀愛次郎、古川榮二、山下信太郎、谷本正明、中村正敏、伊藤竹次郎、木野民助（以上革新）

署名

尚は右兩派は特に代表者各五名を選び十四日正午より平井、湯浅兩氏と共に一富士に於て最後の平和決定協議をなすべしと

大正十年一月十三日

平井由太郎、湯浅銀之助、波多江昇一、熊本愛吉、堀愛次郎、谷本正明、古川榮二、山下信太郎、伊藤竹次郎、中村正敏、佐村福雄、木野民助（以上革新）

署名

尚は本年度の事業費として一千二百弗以内の寄附金を募集し

▲本年度の事業費として一千二百弗以内

▲上の寄附金を募集に伊藤ドクトルを副總裁に推薦する

▲役員當選 會長藤森順造、副會長富崎忠勝、幹事荻原雄一郎、會計綱本卯三郎

▲新選擧 會社定期總會は十二月十一日本紙上に載せたる如く本年度の決算に對し株主三十餘名昨年度の決算に對し承認を與へ尚は本年度重役改選の件に關し左の諸氏當選

湯浅銀之助、四田重藏、鳴澤重太郎、鶴永政吉、山谷太郎、江川省盛、渡邊松三、渡邊長兵衛、植地久太郎、ハリス・デトリック

▲大山領事 は去る九日午後二時青年會にて開かるべき中加四個の定期代表者會に出席すべき委員且つ來るべき日會常議員投票の開票委員選定の件を協議の上本紙に掲載せし如く在日代表者會には神川會長、大野幹事、富田勘三郎三名出席に決し亦中加四個定期代表者會には前回出席の羽柴、福島兩氏は十弗、宮本角一氏は五弗何れも寄附

●寄附 當地美以教會に對し川島伊佐美氏は十弗、宮本角一氏は五弗何れも寄附

サリナス (十二)

●長老教會總會 日本人長老教會に於ては來る十六日日曜禮拜後十年度定期總會を開催し事務及び會計の報告及び役員の改選等なる筈なり

●二縣人會總會 神奈川縣人會は去る九日世良旅館に於て定期總會を開催し事務の報告及び役員改選ありたり、同日福岡縣人會は鬼塚商店に於て同開催し事務の報告役員の改選をなし懇親會を開き無事散會せり

●ビグウイキ決算 千九百二十年度のビグウイキ及び加州ロデオの決算報告は過日發表せるが總取入二萬八千六百十五弗六十五仙にして主なる支出は六千三百弗餘の賞金千五百弗餘の馬匹運送費二千七百弗餘の音樂費用七千八百弗飼料勞働賃其他にて差引一千三百八十弗五十五仙の殘金ありとは大成功といふべし

●小田警師公認 別項廣告の如く小田賛次氏は昨年八月加州醫術開業試驗に於て受驗をし從て昨冬十二月愈々開業免狀を受るゝ事となれり

●評議員會 來る十五日午後一時より日本人ホールに於て最終の評議員會開催總會に對する準備其他重要なる件三ありと各議員及評議員諸氏は萬障繰合せて出席せられたしと

●徴兵猶予出願者 當日會にては今迄取扱ひし數は二十人ありと尚是以上ある見込なれば出願者は可成早く手續を終了せられたし夜間十時迄受付けり由

●中央加州瓜組合總會 去る九日午後一時より定期總會開催組合員全部宴刻を參集富江惣次氏原信良氏長席に恭き開會を宣し和田氏議長席に於て書記に指名し議事に移る木年度販賣方針及ショック其他重要事項五六件を協議し役員を改選し閉會後新年懇親會を催ふしたりと

●歌留多會 昨夜茅野氏宅に於てローレックの夜天狗小天狗約十五人計り參集白を塗つた墨塗つたり隨分賑大なりしと

●出棺 組合長相原仁三氏氏今夕六時組合の用務を帶び出棺

ジートレーキ (十二)

●臨時理事會 ユタ州日本人會では去る九日の午後時局委員會を開いた何か拂日的提案が州會に出ようだとの伴に就てよめつたとゝ云ふが之に續いて來十六日臨時理事會が開催されるとになつた大に低氣壓と感ぜる譯だ

●教會の傳道成績 當市日本人基督教會の役員會が途に會堂新築の案を決定したとは既報の通りであるが去る七日開催の同教會總會でも滿場一致でこれを可決したといふ因に同教會が發表した傳道成績を會計を次に

▲場會數三百十二回 ▲出席總人員六千八百六十七名 ▲獻金總額三千〇十弗四 ▲内九百弗ボーナス補助

●對抗運動と稱す

▲英字紙の報道振り 蛋腦五日布市に於て開催した中加青年會聯合大會の決議に對し排日會長が之を排日材料に利用した由は昨紙報道した所なるが本日のレバブリカンに報せられたる所に依れば右は大會決議に於て利用せしあらずして

▲米化主義者の中島菊次郎君 同大會の模様を綴つた記事中に中加同胞の根底强きを示めして『之れ中加や所謂在米同胞發展の金城鐵壁何物を犧牲にしても之を死守せんとする決心や即ち米化主義者の强固を致せるものなり』との文句を連ねありしが排日會長チャンバー氏は之を目

本人が何所迄も

▲米人に對抗する者なりと云ふ意味に英譯し尚は本月十日の新世界紙に報せられた華村日會の時局費募集記事迄引つ張り出し今度募集せんとする排日運動費二十万弗の搾り寄せに利用したるらしく當地レバブリカンは本記事に對する川島氏の說明を附記して公平に報じ居りしが同紙は尚は之れに對する長論文を掲げ日本人問題は米國生日系市民に依つて雖て解決さるべく在米日本人は日米問題に對して

▲中立の地位 に居るがよし既に此國にある日本人は我等も充分の保護を加ふるを辭せざるべし日本人と青年は當時米化に努むる旨の決議を爲したる由にて吾人は大に之を善としたるに一方に飽迄米人に對抗せんとは甚だ其意を得ず斯う言ふ風に出られては加州としては眞にシリアスなる問題なりと論じて居る

●新設農業組合 昨夜デルレーに於て同胞農家十五六名の集會あり平岡氏の司會にて川島氏より時局諸問題に關說明あり次で農業組合を起すに決し晩餐を共にしたりと

●サンガ青年發會式 種々の事情で行悩み中なりしサンガ青年會は有志の奔走に依り宗教宗派に關係なく不毅獨立で設立するとに決し來る十六日午後一時より同地小川三四郎氏方に發會式を擧ぐる由

●キング郡米人の對日感 川嶋氏は本日同地兩英字紙を訪問し中加同胞社會の米化運動等に付語りたる結果先方も大に了解し近來該地方米人の對日感情は漸次良好に向ひ居る旨を告げたりと

●敎會の傳道成績 當市日本人基督教會の役員會が途に會堂新築の案を決定したとは既報の通りであるが去る七日開催の同教會總會でも滿場一致でこれを可決したといふ因に同教會が發表した傳道成績を會計を次に

▲場會數三百十二回 ▲出席總人員六千八百六十七名 ▲獻金總額三千〇十弗四 ▲内九百弗ボーナス補助

ターラック (十二)

●評議員會 來る十五日午後一時より日本人ホールに於て最終の評議員會開催總會に對する準備其他重要なる件三あるとの各議員及評議員諸氏は萬障繰合せて出席せられたしと

●徴兵猶予出願者 當日會にては今迄取扱ひし數は二十人ありと尚是以上ある見込なれば出願者は可成早く手續を終了せられたし夜間十時迄受付けり由

●中央加州瓜組合總會 去る九日午後一時より定期總會開催組合員全部宴刻を參集富江惣次氏原信良氏長席に恭き開會を宣し和田氏議長席に於て書記に指名し議事に移る木年度販賣方針及ショック其他重要事項五六件を協議し役員を改選し閉會後新年懇親會を催ふしたりと

●歌留多會 昨夜茅野氏宅に於てローレックの夜天狗小天狗約十五人計り參集白を塗つた墨塗つたり隨分賑大なりしと

●出棺 組合長相原仁三氏今夕六時組合の用務を帶び出棺

●布日代表者

フレスノ (十二)

▲神川、富田、大野三氏 フレスノ日本人會は本日午後八時より役員會開催總會の決議に基き來る廿四日より開催の在米日會代表者並に來る十五日バイセリヤに於て開かるべき中加四個日會定期代表者會に出席すべき委員選定の件を協議の上本紙に掲載せし如く在日代表者會には神川會長、大野幹事、富田勘三郎三名出席に決し亦中加四個定期代表者會には羽柴、福島兩氏を選び

▲大野三氏 と決し若し以上諸氏中に事故ある時は他の役員代つて出席する

▲役員 決定、常議員選擧開票委員に飯野、熊澤、神川、島内、西岡、津、平の七氏に依頼する事と

▲常議員 なりたり

●大山領事 は去る九日午後二時青年會にて

▲本年度の事業費として一千二百弗以内

▲上の寄附金を募集に伊藤ドクトルを副總裁に推薦する

▲役員當選 會長藤森順造、副會長富崎忠勝、幹事荻原雄一郎、會計綱本卯三郎

▲新選擧 會社定期總會は十二月十一日本紙上に載せたる如く本年度の決算に對し株主三十餘名昨年度の決算に對し承認を與へ尚は本年度重役改選の件に關し左の諸氏當選

湯浅銀之助、四田重藏、鳴澤重太郎、鶴永政吉、山谷太郎、江川省盛、渡邊松三、渡邊長兵衛、植地久太郎、ハリス・デトリック

●モニタ員會 臨時總會・モニタ日本人會に於ては去る八日定期總會を開き役員故選の結果會長小野助四郎、副會長泉萬八、農業部長森田、大坪兩氏同點にて未決副部長戸内、會計永山、太田の諸氏當選せるが何故にや今回農業部に不信任の點ありとて來る廿二日臨時總會を開催するに決したりといふ

●登明手數料は現金 地方在留者又は地方會より領事館に納附すべき證明手數料をチェックにて支拂ひ來る者あるもチェックは往々不渡りのものあり且稀々繁雑なる手數を要する點あり今後證明手數料は必ず現金又は郵便爲替にて納附を要すと

●車輛支局移轉 從來西二街とヒル街角にありたる車輛課羅府支局は今回南フラワー街一六三〇番に移轉せる由なれば自動車標にとの事なり

●道場開き 東二街朝日新聞社西隣りの羅府道場には十六日夜道場びらみ開きを行ひ引續き桂林樓に於て新年宴會を催ふす由なり

●熊野愛友會報 當地の和歌山縣熊野愛友會にては今回第七號の報告を受くる人々は間違へざる様にとの事なり

●新設農業組合 昨夜デルレーに於て同胞農家十五六名の集會あり平岡氏の司會にて川島氏より時局諸問題に關說明あり次で農業組合を起すに決し晩餐を共にしたりと

●歌留多會 昨夜茅野氏宅に於てローレックの夜天狗小天狗約十五人計り參集白を塗つた墨塗つたり隨分賑大なりしと

●出棺 組合長相原仁三氏今夕六時組合の用務を帶び出棺

ジートレーキ (十二)

●臨時理事會 ユタ州日本人會では去る九日の午後時局委員會を開いた何か拂日的提案が州會に出ようだとの伴に就てよめつたとゝ云ふが之に續いて來十六日臨時理事會が開催されるとになつた大に低氣壓と感ぜる譯だ

●教會の傳道成績 當市日本人基督教會の役員會が途に會堂新築の案を決定したとは既報の通りであるが去る七日開催の同教會總會でも滿場一致でこれを可決したといふ因に同教會が發表した傳道成績を會計を次に

▲場會數三百十二回 ▲出席總人員六千八百六十七名 ▲獻金總額三千〇十弗四 ▲内九百弗ボーナス補助

羅市會員諸君

來る十七日(月曜日)午後七時半幣市一時閉業致居候處今回左記の處に移轉再び開業仕候間倍舊の御引立に預り度此段及御披露候也

一月九日

布市カーン街一四二一

伊達洋服店隣

河本豆腐店

電話一九五三R

洋服大安賣

新開業の祝にして日本人諸君には特別破格の大安賣をなす眞偽御來店の上御試し下さい

新古洋服、帽子、スーツケース、トランク類各種賣買

王府第八街四百七十三

角野洋服賣買店

角野房吉

電話レーキサイド四五八七

豆腐店再開業

キ郡供給株式會社

定期株主總會

來る一月十五日(土曜)午後一時より當店に於て定期株主總會開催可仕候間何卒御來會被下度候

右御通知申上候

大正十年一月七日

ハンホード東六街一二二

定期總會廣告

來る一月十六日午後一時より千九百廿一年一月三日株式會社布市勤業銀行頭取小此木文九郎

株主總會廣告

拜啓益々御多祥の段奉賀候扨例年の通り當行定期株主總會を來る一月十七日(月曜日)午後三時より當行會議室に於て開催致候間萬障御繰合せの上御出席被成下度此段御通知申上候

大正十年一月八日

デルレー協和會

定期總會廣告

來る一月十六日午後一時よりデルレー帝國ホテルに於て定期總會を開催仕候間萬障御繰合御出席被成下度此段廣告候也

大正十年一月八日

デルレー協和會

定期總會公告

來る一月十八日(第三火曜日)午後七時より當市佛教會內ホールにて大正十年度本會定期總會開催仕候間御來會相成度此段會員諸君に公告仕候也

大正十年一月十二日

亞市日本人會

豆腐店再開業

幣店一時閉業致居候處今回左記の處に移轉再び開業仕候間倍舊の御引立に預り度此段及御披露候也

一月九日

布市カーン街一四二一

伊達洋服店隣

河本豆腐店

電話一九五三R

洋服大安賣

新開業の祝にして日本人諸君には特別破格の大安賣をなす眞偽御來店の上御試し下さい

新古洋服、帽子、スーツケース、トランク類各種賣買

王府第八街四百七十三

角野洋服賣買店

角野房吉

電話レーキサイド四五八七

各種苗木有り

葡萄十種類 プラム十種類 オリブ三種 オレンジ二種 フレンチプルン 其他澤山の苗木あり品切れと爲らぬ前御注文を乞ふ

セントラル苗木商 木村辰之助

ナースリー＝ツラレアール街角

▲事務所＝布市エフ街九三五

電話西五七八自宅電三七一一W

御菓子調進所

御菓子卸賣 柏屋

御祝儀御法事御見舞御土產用

布市カーン街一四三一〇

聖書の研究

一部金三十仙 十二冊 一年分郵稅共特價金二弗

教友

十二冊 金五十仙

内村先生及數友の著書聖書及讃美歌を日本定價を米金に換算して四割引郵稅共で受次ます

電話 R2204

南加教友團

博文堂

250 E. 1st St. Los Angeles, Calif.

羅府東一街二五〇電六二五九五

尾鋼紅葉原著 英文 不如歸 二、〇〇

英文 金色夜叉 二、〇〇

新刊及日記類

博文館發行大正十年當用日記大形上製 一、五〇

同 中形總皮函入 二、二〇〇

同 中形背皮函入 一、〇〇

同 中形上製 一、二〇

同 小形上製 九〇

同 小長形上製 八五

大正十年ポケット日記A號一、三〇B號一、二〇C號二、〇〇D號六五E號七五F號六〇G號七〇大正十年懷中日記三〇、三五、四〇、四五

同年家庭日記中形上製 一、二〇

同英文當用日記 一、二〇

共同出版社發行

新當用日記中形皮製 一、五〇

同 上製 一、二〇

新婦人日記中形上製 一、二〇

高島易斷所本部

九星一代運氣活斷口傳書 一〇〇

暦術 三〇

大正十年運勢暦 二五

刷込み繪ハガキ 一打 二五

百人一首歌留多(標準)一組一、五〇

同 箱入 自三、五〇至四、五〇

德富蘆花原著 二、〇〇

尾鋼紅葉原著 二、〇〇

新刊及日記類

博文館發行大正十年當用日記大形上製 一、五〇

同 中形總皮函入 二、二〇〇

同 中形背皮函入 一、〇〇

同 中形上製 一、二〇

同 小形上製 九〇

同 小長形上製 八五

大正十年ポケット日記A號一、三〇B號一、二〇C號二、〇〇D號六五E號七五F號六〇G號七〇大正十年懷中日記三〇、三五、四〇、四五

同年家庭日記中形上製 一、二〇

同英文當用日記 一、二〇

共同出版社發行

新當用日記中形皮製 一、五〇

同 上製 一、二〇

新婦人日記中形上製 一、二〇

高島易斷所本部

九星一代運氣活斷口傳書 一〇〇

暦術 三〇

大正十年運勢暦 二五

刷込み繪ハガキ 一打 二五

百人一首歌留多(標準)一組一、五〇

同 箱入 自三、五〇至四、五〇

德富蘆花原著 二、〇〇

尾鋼紅葉原著 二、〇〇

博文堂

250 E. 1st St. Los Angeles, Calif.

羅府東一街二五〇電六二五九五

整理會社

帳簿の

商學士 增田恒藏

布市エフ街九四九

專門家必要

年度決算 所得稅屆 財產目錄

灣東商會

血液を奇麗にすれば

他は自然に委ねてよし

人類疾病の九割までは血の不潔に基くものなることを知り給ふや自然は見通す事の出來ぬ幾多の方法にて其不純を警告す例へば食思缺乏倦怠を感じ何事もうるさく感ずる樣な時は其警告の一にて遂に起つ可らざる程に不純物が溜るに到るべし、此故に斯の如き場合には血の供給を清め之を强壯にするとの必要なるを認識せざる可らず、此の目的を達するに無比な藥はSSSなる過去五十年間用ゐられたる古き藥にて森林中の草根木皮より製せる純植物製なれば鎮靜質を含有するとなし

本日一瓶のSSSを求め直ちに試用あれ食慾を増進し勢力加はると著るし左記へ申込次第無料說明進呈

Chief Medical Adoviser

880 Swift Laboratory, Atlanta, Ga.

橋本病院

215-6th Street Oakland, Calif.

加州公認 加州公認

入院隨意

大小手術及各種注射の需めに應ず

元帝國大學醫師 ドクトル 橋本秀治

(電話) 二〇九九

井手產院

王府マデソン街七一六

電話レーキサイド四二四五

堀田產院

王府第廿五街五一〇 加州妊產婦收容設備完全 公認

電話オークランド一六六四

同胞醫院

王府アリス街六三六

ドクトル 中村竹之助

ドクトル 梁川健雄

電話レーキサイド四六四七

產婆 山崎シモ

王府第六街三七 電話王府七二〇

●引延 ●進呈

駒井寫眞館

王府第七街三七 電話王府一二六三

武田產婆

王府第六街三七 電話王府一二〇

●引延 ●進呈

重富寫眞館

王府第七街三七 電話王府一二五

伊藤良之介

大工業 王府第七街三九 電話王府六五三

產婆

王府第六街豊七〇 公認

電話レーキサイド五三一 電話王府一二六三

各種苗木賣買

葡萄苗 ▲フルーツ苗 其他一切賣買御注文に應ず可し候

布市ツラレ街一四一二

谷川旅館內電話二九八六

サンメイド苗木園

ヤード (ベルモント、エッチ街角)

葡萄苗販賣

極上葡萄苗販賣タムソン、ソルタナ、モスケ、マラガ、エムブロー各種葡萄格安賣却す御希望者左記(乞御照會 芝吉三郎

Rt. A Box 260 Sutana, Calif.

葡萄苗販賣

極上葡萄苗販賣タムソン、ソルタナ、モスケ、マラガ、エムブロー各種葡萄格安賣却す御希望者左記(乞御照會 芝吉三郎

Rt. A Box 107 Reedley Cal.

フワラー在留同胞總會廣告

來る一月十六日午後一時より日本ホールに於て在留同胞の總會開催仕候間萬障御繰合せ御出席相成度此段フワラー一般同胞諸君に御通知申上候也

議題

一、日本語學園の件

二、ホールの件

大正十年一月九日

フワラー日本語學園日本人同進會

羅府

美洲樓

日本人の支那料理 第八街四一五 電北京一一四藤田

羅府

アートクラフト寫眞館

王府十三街四六七 電話王府一二二一 桑若 牙須 經井久太郎

本間修二

公認醫師 電話王府六六七一 住宅番八街一〇五

犬飼猛

公認醫師 電話王府三六〇 住宅王府八二〇七

矢幡富藏

公認醫師 電話王府十五街五〇六番 アラサビルディング五〇一、五〇二

齒科醫師

王府第十五街五〇六番 アラサビルディング五〇一、五〇二

齒科醫師

公認 電話オークランド二九八七、八八一九

美洲樓

日本人の支那料理 第八街四一五 電北京一一四藤田

羅府支社

北ランチロード一一八 電話 六六七一〇

南加日本病院

Tel. 154227 605 Turner St. L. A.

齋藤齒科醫院

東一街六六六中(神戸屋內) 電六六七一〇

松永多平

公認代理 4924½ E. 7th St. L. A. Calif.

梅澤產婦人科院

公認 羅府東一街三〇五 ベニヒューヨークホテル二階 電話六二六六、一二八六七

產婦人科內外科

醫學士 古澤醫院

通譯ウエントン氏一七 電話六六三五六

須々木榮

東一街 電話一五〇五九 自宅一九一五四

小林診察所

公認 電話 ウエストン氏一七

小川時計店

羅府東一街二四五 電話二二八九〇 貴金屬 貴石類

佐藤琴子

ハサデナ市四グレン街三一〇 加州公認產婆 日本內務省免許 電話アルタデナ二四六一

モネタ原醫院

ウエスト街一四三一 電話 ウエスト三九二一

深澤齒科醫院

3384½ E. First St. Tel. A3178

篠原眼科院

107½ E. 1st St., L. A. Calif.

Telephone 15745 Res. 65137

自動車專門學校

羅府 學生募集

加州羅府東九街八〇〇 電話 一三〇六四

800 E. 9th St., Los Angeles, Cal.

セントラル魚市場

CENTRAL FISH CO P. O. Box 516 San Pedro, Cal.

ロスアンゼルス港 ワイミング街八二四

養老保險

ニューヨーク生命保險會社 本部公認代理

小野助四郎

電話 16195 537 Maple Ave., Los Angeles, Cal.

溫泉

ホワイトポイント 病に特効あるホワイトポイント

本社 田上兄弟

P. O. Box 975 San Pedro, Calif.

白山紀一

電話レーキサイド四五八七

村山三十五郎

村尾鍊志郎

フレスノ病院

Tel. 1389 J.

藤森治療所

15 F St., Fresno Calif.

小此木病院

三浦產院

加州公認 三浦チヤ子 小山ゆきの

◎新鮮なる材料にて調理◎月月一日より開業◎日本人諸君歡迎

中央樓

支那料理 布市エフ街九五〇—五二

布市部谷書店

922 F St., Fresno, Cal.

はりきゝう倉谷滿子

公認 布市エフ街一〇一七 支那活動二階

藤森治療所

布市イ街一〇二五 內務省免許鍼灸醫

日本人間唯一の家具店

松本兄弟書店

1535 Kern St., Fresno, Cal.

日本送金一百弗以上無手數料

布市勸業銀行

株式會社 布市勸業銀行

▲正金銀行預送金は滅船出帆前三日まで迄に御申込が强がです

▲營業時間日曜祭日の外毎日午前九時より午後三時土曜午前限

▲小口年利四分

▲保管箱貸料は一ケ年三弗以上

家具店

布市カーン街八五一 電話

江田產院

自動車の備附 加州公認 產婆 江田スヤノ

布市イ街五六二一 電話四〇七八J

布市支社

布市カーン街一四二一 電話三九四二W

月藤齒科醫院

電話 一四〇二四 醫學博士 唐木保藏

317½ E. First St. L. A. Calif.

宮田雄次郎

東第一街三四五 電話一一四二二

平田篤次

羅府エイタ三階 アルバ銀行 電話六四九〇四 自宅ベニヤ六〇八九

高等御食事所

羅府ウエリングトン街一〇八半 電話 一五八五七

川福

イースタン郵便店 鈴木

1711 Telg. St., Oakland Tel. Oak 3358

サクラメント（十四日）

阿部神保商店 再盗難

昨十三日の午後十時半頃ユニム街備州ホテル前にて探偵の追跡を受け捕縛されたる二名の賊あり一名は墨縞人らしき三十越しの男他の一名は白面の少年なりしが所持品は贓したる兇器を始め服装にすらりと迎ねたる婦人絹衣し邦人某は昨日の警察裁判にて七八通其他絹地スタッキング婦人用オバコートを補々様々の商品現はれ出るより何處より窃取せるものかと捜索せしに同夜九時頃第四街は未だ通行人多き宵の口なるを大胆にも▲阿部神保商店の裏戸上部の玻璃窓を破壊し鐵柵中より手を入れて内部より錠を外し店内に闖入し悠々と一仕事なせるものもしく絹地及び木綿地反物其他の高價品盗難高を計上すれば二千弗程の損害なるべきが之れ等商店並びに住宅の戸締り一層の注意を要することなるべし、此稿終る頃山陽商店裏のヤード黒人居住家屋裏に絹地反物五六反隠匿しあるを発見す

●警察より夜番許可　當市日本人會の推薦により市内邦人區域の夜番が勤むることになりたる由山縣人花田長一郎氏は昨日警察署長より職務を承認され護身用として拳銃の携帯を許可されたるが昨夜より區内の巡邏を始めたるが偏に職巡の心を以て業務精励すべしと来社して語りぬ

●コートランド日會役員　河下コートランド日本人會にては去る九日開催の定期總會に於て役員を改選左の諸氏當選したりと▲徐事平野松太郎▲會計星津常吉▲松田繁雄▲會計監査神村清太郎、古田繁次郎▲諸氏當選したりと

●横島幸一氏急死　當市第四街山陽商店主山口縣人横島幸一氏は豫て咽喉癌を病み居り十三日午後四時頃徒歩にて林病院に赴き手術を受けたるが同夜急變し夜半十二時急死したり享年四十六葬儀は十七日午後一時櫻府佛教會にて執行さるもの

●貸自動車組合役員　當市の貸自動車組合は十二日夜総會を開き役員を選挙したる結果は▲理事中田作次郎▲會計岡本秀麿▲會計監査神村清太郎、古田繁次郎氏當選したりと

●ブラサ青年會々報　ベレリンの青年會によりて發行されたるプラサ青年會報第一號當支社に寄贈されたるが内容豊富論壇に藝苑に讀むべきもの多し

●渡米者　鈴國中なりし當市津田商店主津田伊之吉氏夫人及子息六郎は本月十四日桑港着のコレヤ丸にて再渡米、アメリカン河畔農業家高知縣人松田和之助氏長女静子、同地同縣人中島孫文氏二女直子、デルバソ農業家廣島縣人齋藤増吉氏二男四三同船にて渡米したりと

●二百弗むだ金　先日當誌札三枚を所持せること官憲に發見され邦人某は昨日の警察裁判にて二百弗の罰金に處せらる

●川崎牧師來櫻　羅府美以教會の川崎牧師來櫻昨夜當市美以教會にて「青年の環境と着眼點」と題する講演ありたり

オークランド

●嘉穂郷友會総會　王府嘉穂郷友會は明四日曜午後三時より同會事務所に於て第三十四回の定期總會を催ほする由一般會員の來會を希望すと

●自動車新調　王府學園にては今回生徒用自動車を新調し相變らず兒童の送迎をなす由

●平信徒同盟委員會　灣東平信徒同盟は今日午後八時より王府書の中十餘名の分を本日却下して来た今領事館よりの注意書を左に記載すれば此等の者は以前より當國に在留し居りしに不拘昨年十二月及び本年に至るまで登録せざりしは如何なる理由なりや渡米以來の行動詳細に記載せし理由書を添付せしめられたし

●登録を軽視する勿　須市日會から去十二月及び一月初めに桑港總領事館に送つた微兵延期願遺つた女第でもあるに同情に堪へない譯である農國に居る多くの親達は何うか大いに警戒し欲しいものである

●新チーム組織　小村、大橋、丹治、篠崎、桑瀬氏等發起となり中年組のバスケットボール新チームを組織する由にて來十六日友愛倶楽部にて小手調べをなすべし

●鬚武者親爺連のバスケット　倶楽部は定めし壮観なる可し

●京野同盟幹事出張　須市踏博撲滅期成同盟會幹事京野順八郎氏はブラサ同盟會の招聘により來十五日夜該地に開催すべき講演會に出演の爲め十五日午前當地出發ベンリンに向ふ筈

●死亡　ペーロン二番廣島縣人森本軍一氏のベビイ（生後三週間）昨夜死亡明十四日午後二時半より須市佛教會に於て葬儀執行の由

●佛教會記事　▲報恩講餘報の如く来十五、十六兩日櫻府工藤ヶ開教使不老林、達開教使を招聘し宗祖親鸞聖人報恩講を營む筈にてプログラム中には十五日は午後二時より六中六日は午前十時より一般開教使及び須市青木開教使の説教及び生徒の英語演説等もある筈▲定期總會去十六日午後二時、重要議案役員改選何れも本月末に於て仕事に焚いて置いて畑に夫婦で仕事に行つた三十分許り經つて八百ばかり隔た農園の中からフト呼ばかり隔た農園の中からフト子供の方を眺めるとボギーから子供の方を眺めるとボギーから煙が揚がるのが見へるスワ

嬰兒の燒死（十三）

スタクトン

須市河下ベーコン一番愛知縣人八木文五郎氏は昨日三時半頃夫婦にてアニオンを詰きに出掛ける際生後八ケ月になる文男をボギーに載せデッチの側に置き三歳になる長女に守させ塞かうと云ふのでボギーにサックをかけ尚は一間許り離れた所に火を焚いて畑に夫婦で仕事に行つた三十分許り經つて八百ばかり隔た農園の中からフト呼ばかり隔た農園の中からフト子供の方を眺めるとボギーから煙が揚がるのが見へるスワ一大事と二人がボギーの側へ駆ケ付けた時は如何なるはづみで火が移つたものかボギーに掛けて置いた火燵に火がついて子供は火燵に巻かれ其顔は見るかげも無く焼けただれて居る、父親は取り敢へず子供を抱き上げ（其着物を脱がせキンプに連れ歸り應急の手當をなし時を移さずボートで須市に運びスタクトン病院に入院させ治療したが夜に入つて肺炎を併發し十一時半頃遂に落命した因みに葬儀は明十四日午前十一時から須市佛教會で執行の筈尚は聞く所によれば一昨年同氏方にて落ちて溺死し昨年は長女（今年三歳）が他の子供等と遊戯中眼球を突かれ遂に昨年は長男がデッチに落ちて溺死し今回此不幸な災難に遭つた女第でもあるに同情に堪へない譯である農國に居る多くの親達は何うか大いに警戒し欲しいものである

●ホワイトホテル開業　南センター街三〇一に新築せる四階ビルデングは建築費十萬弗地所建物共に日本人所有にて持主は海田音次、岡田昇作氏等なるが倉くに來る十五日よりホワイトホテルと稱し旅館を開業する由なり万事新式にて他の白人ホテルに比しても恥かしからぬ走日本人街の誇りなり

●歌舞臺化芝居　歌報の如く來二十五日より三日間當市朝日座に於て開演すべしと

ニユウヤキツスル（十三日）

●日曜學校新校長　米化日曜學校は長らく校長缺員中の處去る十一日白人教會日曜學校役員會に於てオールダム氏を校長に推挙せり且つ今後日曜午後二時に開来十五、六、七三日間須市朝日ホールに於て開演可仕候

●故竹葉氏追悼會　來る十六日午後六時ベンリン日本人ホールに於て開催活動寫真追悼演説等ある筈周京野兩氏出演すべしと

●鍼灸採療治　四百八番　根立院

●二百弗の罰金　先日當誌札三枚を所持せること官憲に發見され邦人某は昨日の警察裁判にて二百弗の罰金に處せらる

●川崎牧師來櫻　羅府美以教會の川崎牧師來櫻昨夜當市美以教會にて「青年の環境と着眼點」と題する講演ありたり

●嘉穂郷友會総會　王府嘉穂郷友會は明四日曜午後三時より同會事務所に於て第三十四回の定期總會を催ほする由一般會員の來會を希望すと

●自動車新調　王府學園にては今回生徒用自動車を新調し相變らず兒童の送迎をなす由

●平信徒同盟委員會　灣東平信徒同盟は今日午後八時より王府書の中十餘名の分を本日却下して来た今領事館よりの注意書を左に記載すれば此等の者は以前より當國に在留し居りしに不拘昨年十二月及び本年に至るまで登録せざりしは如何なる理由なりや渡米以來の行動詳細に記載せし理由書を添付せしめられたし本人又は本人の住所御存じの方は下名迄至急御一報被下度願上候

R. F. D. 1 Box 50 Vacaville, Cal.
パカビル　出口重次郎

尋人神野和一殿

右本人に付て國元よりの書面に接し至急面談致度儀有之候に付本人又は本人の住所御存じの方は下名迄至急御一報被下度願上候

R. F. D. 1 Box 50 Vacaville, Cal.
パカビル　出口重次郎

40 Sausal St. Salinas, Cal.
手術一般各種注射
入院謝時
ドクトル　小田贊次
メデシン
電話サリナス六九五

定期總會廣告

來る一月十六日（日曜）午後一時より當櫻亞學園に於て本會定期總會を開催致候條出席會員諸君に公告候也

大正十年一月十二日
メリスビル　日本人會

定期總會

來る一月十六日午前十時より當市櫻亞學園に於て本會定期總會を開催致候間會員諸君は萬障御繰合せ御來會被下度此段御通知申上候

大正十年一月八日
櫻府　日本人會

莓苗ありて樓亞日本人會

レヂーコーネル　アロマ
フエンデール　ダンロップ
東部苗　平敷安正
Rt. 2 Box 71-B Covina, Cal.

タムタムソン葡萄苗木　一萬二千株程
買入れたし御所持の方は左記まで値段附けにて御一報願入たし
エス・岩井
1416 3rd St. Sacramento, Cal.

種子物（今マクモノ）
ベッパー、トメト、ナス、レタス、アニオン、スピニチ、大根其他何でも有ます御遠方の方はチヤツキにて御送金下さい
Kitazawa Bros
197 Jackson St. San Jose, Cal.

内務省発許　妊産婦、收容所
加州公認　産婆　大塚産院
須市麻岡病科大學看護婦卒業
須市南センター街三二〇
電話架設中

北澤商會

總會廣告

本會大正十年度定期總會を來る一月十六日（日曜）午後二時より櫻府第四街日本人會にて開催致候間會員諸君は萬障繰合せの御出席相成度廣告候也

一、昨年中の會費未納の諸君は此際至急御送附を願度候

一、總會當日は必ず通知狀を御携帯相成度候

一、總會に提出議案は前日迄本會に御通知相願度候

大正十年一月七日
サクラメント　日本人會

大歌舞伎

紀國屋一座
初日　忠臣藏　大序より喧嘩場迄
切狂言　千代半兵衛
二日目　忠臣藏　五段目より十一日白人教會日曜學校役員會
三日目　鏡山故郷の錦江草履打より敵討迄
切狂言　勸進帳辨慶安宅の關
來十五、六、七三日間須市朝日ホールに於て開演可仕候

請元　佐藤太郎

世話人　一同

公告

本會定期總會を來る一月十六日午後二時より サンノゼ日本人ホールに於て開催仕候條會員諸氏は舊て御出席相成度此段廣告仕候也

大正十年一月十日
サンノゼ　日本人會

貸地廣告

毒耕作希望者に空地四十英町程貸地致し農舎は各組により別々の事、場所は上スタクトン道路に添ふるエルグローブ交通の便好く土地平坦肥沃灌漑の設備あり委細面談左記へ御照會被下度候

櫻府エム街三〇八
細川旅館

再開業

今回左記に移轉日本飯カウンタを開業仕り鍋焼うどん、丼類一切、茶碗むし、關東煮、どて焼たでん各種御好みに應じます

須市南エルドラド街二三九
十二月廿二日　椿亭
中島吉之助

懸賞尋人廣告

若林正喜（滿七歳）

右去十二月十一日午後四時頃住宅附近にて行衛不明と相成櫻府河ローロイヤルーフリーボートより約一哩下の地點より流屍發見の先者へ御謝しものと推測致候に就ては右屍體を御知の先者へ御願して

金五十弗　差上可申候

若林半次
R. F. D. Box 74 Hood, Cal.

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
丸三商會

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
降矢時計店

櫻府エム街三〇一
電話メーン三八六七W
大和家具商會

櫻府エム街三〇一
電話メーン三九八
崎山商店

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
ドクトル　柴太郎

櫻府第四街一三一八
電話メーン六四三
ドクトル　柴太郎

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
武田正夫

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
日本鳥屋

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
大北館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
竹本ドラグ

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
備州ホテル　山田

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
日本館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
日の本旅館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
西村旅館

櫻府エム街三〇八
電話メーン三八八
川村旅館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
岡山旅館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
肥後屋　新旅館　兄弟

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
廣島旅館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
吉田寫眞館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
日本寫眞館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
松野歯科醫院

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
日本寫眞館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
廣島寫眞館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
日本寫眞館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
日本鳥屋

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
大北館

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
竹本ドラグ

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
東西商會　呉服雜貨及食料品

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
みかど魚店

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
麹味噌製造所

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
酒井藥店

櫻府公認産院（いろは順）
櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
岩井きよ

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
蟹江嶋子

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
山浦なつ子

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
小林ひろ子

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
宮崎アイ

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
高橋通辯事務所

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
住宅三〇九四

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
海田高次
岡田昇作

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
館主

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
和洋食料品
津玉商店

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
吉田歯科醫院

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
宮崎醫院
アイオワ州立醫科大學出身
ドクトル・オブ・メデシン
宮崎秀太郎

加州公認
沖田醫院
ドクトル　沖田楠之進
メデシン
出張所ウオナダグローブ
三田通二階（日曜午後一時より六時迄）

櫻府エム街三〇九
電話住宅三九二〇WW
加州公認
沖田醫院

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
ドクトル　柴太郎

櫻府第四街一三一八
電話メーン六四三
ドクトル　柴太郎

加州公認
唐津病院
櫻府エム街二百二十八番
電話メーン二〇壹壹
唐津病源研究所

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
隆辻便利社
住宅電話四六八二W
廣島商店

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
和洋食料雜貨
いなか商店

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
食料品
金物類
電話メーン三一三一

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
石井醫院
東京帝國大學
醫學士　石井銀佐

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
佐藤歯科醫院
歯科醫學士　佐藤廣吉

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
村上醫院
加州公認
醫學士　村上利通
住宅第五街ドロシアレー五二一番
電話一九七二W

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
有明商會

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
末本

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
保險　櫻府エム街三〇

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
名出病院
加州公認
ドクトル　名出三郎
メデシン
内外科・小兒科・産婦人科
診察午前九時より午後入時迄

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
春木醫院
ドクトル　春木柳平
メデシン
電話メーン二二四六六

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
生命　片岡貫一

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
岩本歯科醫院

櫻府エム街三〇
電話メーン二八五一W
吉村商店

櫻府エム街三〇
電話メーン二八五一W
紀伊商店

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
吉田歯科醫院

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
櫻府　日本人會

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
ライオン藥店
公認
第四街と エル街角
櫻府第四街千二百十七番
電話メーン一〇七八

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
日本銀行

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
O.K. 家具金物商店
専門醫紹介及通譯、診察室設備完全
電話メーン四六七〇（センター廣貴）

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
井上商會
米穀屋
各種肥料
サック　古サックもあり
太平洋肥料會社肥料一手販賣
櫻府エム街三百二十
電話メーン三八八一ゼー

須市
室内洋漆　玉臺の
櫻府エム街二四
須市河下
須市ホテル
東マーケット街一二四　電話七三一　水谷猛

室内洋漆、玉臺の
櫻府エム街二四
須市
須市ホテル
東マーケット街一二四　電話七三一　水谷猛

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
久世産婆
公認
須市南マデソン街二二〇
電話二九〇三
櫻府第四街千二百十七番
電話メーン一〇七八
日本銀行

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
櫻府　株式會社　日本銀行

須市南エルドラド街四四電九〇四住宅電話一三六二
早石醫院
央加州公認内外科醫
ドクトル・メデシン
早石實藏

J. Hayaishi, M. D.
44 S. El Dorado St.
Stockton, Cal.

室内清潔、設備完全　スタクトン市南センター街一二四
タフトホテル
御來店の節は是非御投宿を願ます
（電話三六四〇）
麻生德三郎

須市南エルドラド街四四電九〇四住宅電話一三六二
早石醫院
央加州公認内外科醫
ドクトル・メデシン
早石實藏

須市南エルドラド街四四
電話メーン二八五一W
友岡旅館

須市南エルドラド街四四
電話メーン二八五一W
須市支社

須市南エルドラド街二二八
電話　醫院　住宅　五〇八三　四九六三W
加州公認
石川醫院
ドクトル　石川榮助
内科・産婦人科・泌尿科
ドクトル　石川榮助

須市南エルドラド街二二八
電話　醫院　五〇八三　四九六三W
加州公認
石川醫院

須市南エルドラド街二二八
福岡屋内　電話二五九四
加州公認
内田醫院
ドクトル　内田賢助
メデシン
▲内科▲小兒科▲泌尿科
▲外科▲肛門病科
醫學士　内田賢助

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
高橋商店
糊食料品
雜貨商
スタクトン
333 S. Center St., Stockton.

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
江頭豆腐店
ドクトル・ヒル　Tel. 4408W

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
工藤歯科醫學士
公認歯科醫學士　中原八一
須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
工藤歯科醫學士

公認
須市南センター街一三七
産婆　西岡ハルヨ
小杉ルーミング内
電話一七二九

須市南センター街一三七
北原産院
公認
電話一九一W

須市南センター街一三七
電話一九一W
須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
日本旅館

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
豊明館

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
尾張屋

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
加州館

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
ヨセミテ

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
中島ホテル

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
南海屋

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
福岡屋

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
安藝旅館

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
サンオキン

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
サツマヤ

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
紀州館

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
錦帶旅館

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
ミカドホテル

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
廣島屋

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
肥後屋

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
バナマ

須市南エルドラド街二二八
電話二五九四
須市旅館業組合

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
金銀寶石、時計修繕
質店　國井時計店
40 E. Washington St., Stockton, Calif.

櫻府第四街一二三
電話メーン二八五一W
櫻府　日本人會

FOR AMITY BETWEEN
AMERICANS AND JAPANESE

The Japanese American News

ENGLISH EDITORIAL PAGE
SATURDAY, JANUARY 15, 1921 No. 7605

Driving Out the Japanese.

IN THE FAR southern corner of Texas, where the United States and Mexico meet, said The Japanese American News, in Japanese, last Sunday, there has been a story in circulation for some time past that a horde of Japanese farmers from California were coming to occupy the vast fertile Rio Grande Valley.

The American Legion in the Lone Star state, so the story goes, was on the lookout, trying to devise some means to check the movement. Recently a resolution was passed publicly, calling attention to the situation and saying that an anti-Japanese land measure, similar to the new California law, would be introduced and ratified by the Legislature.

One day last month a few Japanese farmers from California arrived at the small town of Harlingen, with their wives and children, looking for some likely place to set up farming. They were met at the station by the citizens of the town and were informed that their presence there was undesirable. They were requested to move on.

If other Japanese farmers made the same effort they probably would be treated in the same manner. There is deep significance in this incident. Even Senators Hiram W. Johnson and James D. Phelan will not be able to offer an adequate explanation as to why those Texans drove out the "Japs"—why they would not permit them to migrate freely and peaceably from one state to another.

The action was manifest injustice. Those Japanese had been admitted to the United States lawfully. Theirs was the right to travel as they pleased, and to live, and theirs also should be the right to own land in those states where the law permits ownership of land by all foreigners. This is guaranteed by the Constitution and sealed by the treaty with Japan.

This is not a matter in which legal rights are in doubt. The purchase of land for farming and immigration into Texas from California was undertaken by these Japanese strictly within the rights guaranteed by the Constitution and the treaty. But the manner in which the Texans compelled those farmers to leave town was without authority and a plain case of encroachment upon the treaty and the constitutional rights of the men.

It is strange to see some legislator trying to put a good face on this absurdity. The officials of the State Department allow the incident to pass without comment.

We do not advise Japanese farmers in this state to leave California for some other state. We believe that nothing is to be gained by migration, and we certainly do not propose to induce them to leave in the hope of bettering their condition elsewhere.

If Japanese are determined to go, they must decide for themselves whither they shall go. Not that we do not intend to guard the rights of Japanese in other states. But it is for the Japanese government to take all necessary means to protect the farmers who were threatened down in Texas with violence.

The incident was very simple, on the face of it. The situation is analogous to renting a house in a city. Always do we have some difficulty in renting a house, and even after we have secured one sometimes the neighbors bother us. American people in general do not understand the Japanese, and they look upon the Japanese here as a very inferior race. They are accordingly opposed to having Japanese for neighbors. But, once they come in contact with Japanese they find them agreeable, and find their standards of living are not inferior.

As a general thing your Japanese is a generous man. He will make presents of fruits and vegetables to his neighbors when he receives such gifts from country friends.

To Texas the Japanese are total strangers. The Japanophobes of California have been extending their propaganda to Texas, sending out printed matter and otherwise spreading false reports in an effort to give the impression that the Japanese are a hateful, dreadful race.

In Texas they have been singularly successful. Texans, warned of the danger of a horde of Japanese from California overrunning their state, took heroic measures in the beginning. If the Texans understood the Japanese they would not oppose their coming, even if they did not welcome them.

How to make the American understand the Japanese is a great problem. It is the kernel of the anti-Japanese question.

The New School Bills.

The following is a free translation of an editorial in Japanese published in The Japanese American News on January 7:

JUST AS WE HAD anticipated, two bills bearing on Californian Japanese school children have been introduced into the Legislature. One of these bills would prohibit Japanese language schools in this state; the other would establish segregated schools for Japanese pupils.

We might just as well be prepared for more bills of like nature. Such measures will first be considered by the educational committee. Using those presented as a basis, the educational committee probably will draft a bill or two. Finally, the proposals will come up for discussion by the body of the Legislature.

Regrettable misconceptions of the Japanese schools, we are persuaded, are entertained by many. Even Will C. Wood, state superintendent of public instruction, asserted in his annual report that some foreign language schools in California are teaching their pubils a creed of loyalty to the fatherland of their fathers.

In part, perhaps, these misunderstandings have been due to thoughtless conduct on the part of Japanese school authorities and others. There is no question that teaching of a dual loyalty should be stopped, if there has been any such practice.

We do believe, however, that it is essential that Japenese school children be taught the Japanese language. What needs changing is the manner in which such instruction is administered. Maintenance of separate schools for Japanese children has been proposed, in and out of the Legislature, for many years, and, if we are not misinformed, there are some segregated schools in some parts of the country.

Theoretically, such treatment of American born Japanese children is unconstitutional. All Japanese children born in this country have the right to become citizens in due time, and the constitution guarantees them the right to be treated as citizens.

If, as a matter of fact, however, it shall be found that more Japanese children are attending American public schools than can properly be accommodated, then some heroic methods must be resorted to if the best results in the way of education are to be obtained. It would be bad, for instance, if the majority of children in a given school were Japanese, speaking imperfect English. Such a situation naturally would have a bad effect upon the American children.

The truth of the matter is, the Japanese are the first generation of immigrants. Like all other immigrants the problem of making a living comes first with them. It is natural that, unconsciously, they would neglect the home training of their children. Those children who have missed the opportunitty of a good education naturally would prove deficient in English.

It is a matter of debate whether it were better to stand on constitutional rights and argue that, without exception, in all parts of California, Japanese children are entitled to a mixed education, i. e., in English and in Japanese. Any sapient and unbiased statesmen trying to solve this question should work first for specialized education, not only for the children of Japanese but for the children of all parents speaking only a foreign language. Second, they should realize that there is no need for maintaining a separate school where the number of children of foreign parents in the district is small.

Only when the number of Japanese pupils whose English is faulty in any school exceeds twenty-five to thirty per cent, should examinations be held to determine their knowledge of English.

The teachers in such schools should be just as capable as the teachers of ordinary schools. But when there are children requiring education in separate schools, it is the duty of the school authorities to make proper provision, in order that no child be denied an education. And the schoolhouse should be within walking distance of the child's home.

The children of Japanese born in this country, we repeat, will be entitled, upon attaining their majority, to citizenship. Any measure that would take away privileges of education would only redound to the disadvantage of the community.

Japanophobia Oregoniana.

The following is a liberal translation of an editorial in Japanese published in this newspaper on Thursday:

GOVERNOR BEN OLCOTT of Oregon has sent a message to the Legislature of that state in which he discussed the "Japanese problem" there. He touched upon superior qualities of the Japanese as well as their "unassimilability."

A DAY AT AYABE.

OMOTO-KYO IS NOT a religion, said the kyoshu or chief teacher, Deguchi Wanisaburo, in an interview in the Japan Advertiser. If it was, he said, people would be free to believe or not to believe in it; but as it teaches mankind in general and Japanese men and women in particular how to live morally, spiritually, politically, socially and economically, it is the teaching for everything, a teaching that everybody must believe and practice whether he or she wills or not, in order to be a true man or woman.

All existing religions, said another preacher in the Mirokuden Hall at Ayabe, deal only with the spiritual concerns of mankind; for instance, the Japanese word for Buddhism "hotoki" means spirits or souls separated from the flesh, from the verb "hodikeru", or to "get untied". The philologist would point out, however, that the word Buddha when phonetically represented with Chinese ideographs became something like fuda or futo, which in Japanese became the first part of hotoke.

The age of Buddhism or of a separation of the physical and spiritual life is over, the Omoto teachers assert; Christianity, Buddhism and so on have been so many stepping stones to the realization of Omoto ideals, the common ideals of all mankind, which are found in the oldest Japanese books, Kojiki and Nihonshoki and which were re-expressed in the modern terminology, as applied to the existing conditions of the world, by Kyoso or Founder-of-the Teaching Deguchi Nao in her prophetic "ofudesaki" scribblings of divine inspiration. The Japanese are the Omoto gods' chosen people destined to a moral unification of human thought and action.

DREAMS OF WORLD EMPIRE.

Do they, then, preach a political unification of the world by the Japanese, or that we as the gods' chosen people are entitled to territorial aggression? This second point raised was explained away by Kyoshu Deguchi by saying that each country has its own Kunitama-no-Mikoto or guardian deity, that the British for example must be guided or ruled by their own king in accordance with the divine teaching of the guardian deity of Great Britain.

Omoto-kyo therefore means the "fundamental teaching" for all mankind which the Japanese alone can practice to a perfection—hence the sacred obligation of the chosen people to undertake the exalted task of moral (in a broad sense) leadership of the world. In a moment of supreme danger, the non-Omoto sections of the Japanese people may have to seek physical succor and spiritual salvation of the Omoto believers; in a similar way, there may come a day when the rest of the benighted world must make a signal of distress to a people on the terra firma of Omoto-kyo.

Outside Ayabe it was said that some of the Omoto believers seem still inclined to dream of a physically or materially greater Japan. In Osaka one day it was noticed the Taisho Nichi Nichi in its editorial columns unfavorably criticized the withdrawal of Japanese troops from Siberia and Chientao, on the ground that such an act sullied the military glory of this country. This may be interpreted as indicating the militarism of some Omoto believers, but there will not be many Japanese who can be induced to believe that territorial aggression could justly be indulged in to maintain the military reputation of a nation.

IMPURE FOODS DISTASTEFUL.

There is another reason why the Omoto people can not possibly become a race of conquerors. In reply to a question Kyoshu Dekuchi said they were not vegetarians on principle—they could eat meat or fish or any other food they liked, but that as they went on in their spiritual training, impure foods naturally became distasteful to them. He himself, for instance, lived on cereals, and salted-pickled vegetables alone and could not relish any other food. But a young man from Tokyo, who was sent to the Omoto boarding house by his parents after a criminal life as the ringleader of a large group of delinquent boys, confided that he had suffered terribly from the coarseness of the food there, with fish only once or twice a month and no meat at all, and he added that the work of carrying heavy loads of stones or earth for garden-making was at first so hard for him that he thought he was going to die.

This youth also said he did not really believe in the practice of "chinkon-kishin"—to compose one's soul and be united to divinity—but that the teachers passed him in the elementary physical and spiritual training and put him in the propaganda department where he was assisting in their literary work.

Real Omoto believers are found more among men engaged in the hardest physical toil than among those doing intellectual work. This "simple living and high thinking" combined with physical toil seem to make the average denizen of Ayabe a man or woman of delicate, even morbid, sensibility, of palefaced malnutrition.

Kyoshu Deguchi is certainly an exception; he looks well-fed both morally and physically. As a boy of 11 he began to hear strange voices and see wonderful visions, but as a poor peasant's son he had to draw a cart or deliver milk until he married Kyuso Nao's daughter and realized that he was gifted with the power of kangakari of "divine possession". Vegetarians may be more spiritual than meat-eaters, but the former can not hope to conquer the latter in a cold clime.

"COMPOSURE OF SOUL."

What is this "chinkon-kishu", then? It is practised twice a day, after the morning and afternoon sermons, for about tairty minutes at a time, in the Mirokuden Hall. On a platform before a low Japanese desk sits a teacher who reads from the Kyuso's scribblings in a clear, sonorous, slow, solemn voice. This is supposed to be the sending in of the good spirits of heaven and earth to the persons practicing composure of soul, who sit in rows facing the teacher with closed eyes, with one foot against another, and with their hands joined on the chest. This is not the Zen meditation of Buddhists, neither is it identical with the self-mesmerization of "abdominal breathers" (fukushiki Kokyu.) It is, they declare, a state of spiritual vacuity in which the good spirits of the Universe (or, one of them at a time?) can freely enter and take possession of the soul of a man or woman.

The entering of a good spirit implies the going out of a bad one, and as the latter leaves the body it causes violent physical motions, which they call hatsudo or activities, with some individuals. The superstitious or the ignorant may believe, Kyushu Deguchi said, this hatsudo is an indication of divine possession, but it is not so and therefore he discourages it. Neither do they pray for recovery from illness, for illness is a sign of the indwelling of a bad spirit which can be expelled only by the incoming of a good spirit. There are altogether 181 classes of good spirits, said one teacher in his sermon, as there are 181 classes of bad spirits. While a congregation of, say, twenty men and women are engaged in this chinkon-kishin, another teacher goes round to examine each of them and finds out whether he or she is "composed" enough to be admitted into further mysteries of the Omoto teaching.

A CHALLENGE TO RELIGION.

At Kyoto some people were heard to say that, because the Omoto teaching made some individuals insane, its reputation was going down in that city. Whether this was true or otherwise, the writer took the liberty of telling a Christian missionary resident in Kyoto that even a short-lived popularity of this sort of mixture of diverse precepts and practices was really an insult or a direct challenge to all existing religions and modernisms, which seem to have but a poor control of the present unrest of the entire world.

If the Omoto people live up to their ideals, not only are they harmless but also they may contribute something to the general uplift of mankind. But, on the contrary, if they or a majority of them use their ideals for feeding jingoism, they will forfeit their moral title to leadership and become instrumental in checking the progress of mankind on the path of human solidarity. They may believe or preach, for instance, that their keeping the hair long is a good conductor of spiritual electricity, so to speak with perfect impunity.

When they claim, however, that the Japanese hair is a better conductor of the spiritual influence than the hair of any other race or nationality, not only do they inspire the chauvinistic with a sense of spiritual superiority, but also confirm the bigoted in their superstition that the eaters of defiled food are not fit for the society of the eaters of the gods' pure food! Such a notion in this age of human, international, inter-racial solidarity can be tolerated as a sort of reaction against a blind worship of everything foreign.

On account of these things, said Governor Olcott, it is necessary to exclude Japanese from Oregon.

There may be one-tenth the number of Japanese in Oregon that there are in California. Compared with the entire population of that state, the Japanese contingent is insignificant. Yet here is an effort to make it a very great and pressing "problem". It is hard to understand Governor Olcott, unless he has become a sort of professional Japanophobe.

WHEN THIS OLD WORLD WAS YOUNG.

(Continued from Last Saturday.)

KOSO LED HER from palace to palace, and Kohaku could not tell which was the most beautiful. To her royal husband she seemed far more lovely than any of them. He desired that her surpassing loveliness should ever be remembered throughout China, even beyond the bounds of his kingdom. Calling together his goldsmiths and gardeners, he commanded them to fashion a path such as never had before been dreamed of. Lotus flowers were to form the stepping-stones of this path. They were to be carved out of silver and gold, and, whenever she strolled in the gardens, under the trees or by the lake, she was to tread upon the lotus flowers, that her little feet might never be soiled by contact with the earth. From that day to this, in China and Japan, poetasters and lovers have called the feet of the women they love "lotus feet."

Despite all the magnificence surrounding her, Kohaku Jo never forgot her native land or the vow made that day in the temple of Kofukuji. Timidly reminding her husband one day of his promise, he caused to be placed before her a great store of precious and beautiful things. She found it quite difficult to make a selection.

A musical instrument which, once struck, would play forever and a day; an ink-stone box, which, on opening the lid, was found to contain an inexhaustible supply of India ink, and a beautiful crystal, in which was to be seen an image of Buddha riding on a white elephant, finally were chosen by Kohaku. The crystal was of transcendent glory, shining like a star. Whoever gazed into its liquid depths and saw the blessed vision of Buddha forevermore would know peace of heart.

After she had feasted her eyes on these treasures for some time, Kohaku sent for Admiral Banko and bade him convey them to the temple of Kofukuji.

Admiral Banko and his ship fared well until the Bay of Shido-no-ura had been entered, when a mighty tempest arose, tossing and tumbling the vessel about. The waves came at the ship like wild beasts, lightning forked across the dark heavens, now showing a wallowing ship, now revealing mountains of black water.

Suddenly the storm abated as unexpectedly as it had been kicked up. It seemed as though some fairy hand were drawing aside the clouds and laying a blue, sparkling carpet across the sea. The first thought of the admiral was for the safety of his treasures.

BUDDHA'S CRYSTAL GONE.

Going below he found the music instrument and the ink-stone box just as he had left them, but Buddha's Crystal, most precious of the treasures, was missing. So grieved was he at this loss that his first impulse was to cast himself into the sea. On reflection, however, he realized it would be better to live as long as there was any hope of finding the jewel. Accordingly he hastened to land, and informed Kamatari of his misfortune.

As soon as the wise old minister had heard the story he knew that the Dragon King of the Sea, and none other, had stolen Buddha's Crystal, and that the storm was but a bit of camouflage to hide his actions.

To a number of fishers upon the shore of Shido-no-ura Kamatari offered a handsome reward for the return of the Crystal. All the fishermen volunteered to join the hunt, but all were unsuccessful. The precious jewel remained in the possession of the Dragon King.

A poor woman carrying an infant in her arms begged the great minister to allow her to enter the sea and search for the Crystal. She was frail, but she spoke with an air of conviction. She seemed to obtain great courage from her mother-heart. If she succeeded in her quest she would ask Kamatari to bring up her little son as a samurai, in order that he might amount to something more than an humble fisherman.

Kamatari in his day had been ambitious for his daughter's welfare. He readily understood the poor woman's request, and gave his promise that if she succeeded in bringing home the Crystal he would do as she asked.

PREPARES FOR ADVENTURE.

Thanking the minister, the woman withdrew to the strand, removed her upper garments, tied a rope around her waist, into which she stuck a knife, gave the end of the rope to several fishermen, and plunged into the water.

At first the woman saw the dim outline of rocks, the dart of frightened fish, the faint gold of the sand beneath her. Then she was aware of the roofs of the palace of the Sea King, a great building of coral, as gorgeous as it was immense, relieved here and there with clusters of seaweed. It was like a huge pagoda, rising tier on tier.

Swimming nearer the better to inspect the palace, the brave woman saw a light of the brilliance of a thousand moons, dazzling to the eye.

It was the light of Buddha's Crystal, placed on the pinnacle of this vast abode. Guardian dragons slept on every side, appearing to watch the jewel even as they slumbered.

The woman swam steadily on, praying that the dragons would continue to sleep until she had possessed the treasure and was out of harm's way. But she no sooner had snatched the Crystal than its guardians awakened. Their great claws extended and their tails lashed the water furiously. In a trice they were hotly pursuing the woman.

Determined not to lose the Crystal, which she had gone to such lengths to obtain, the woman cut a gash in her left breast, pressed the jewel into the bleeding cavity, and swam on. Sea-dragons live in mortal fear of the very sight of blood, and they quickly turned tail and fled.

(To be continued.)

Masters are mostly the greatest servants in the house.

* * *

Marriage and hanging go by destiny.

* * *

Many men, many minds.

* * *

No sport, no pie.

* * *

Nothing can come of nothing.

TREASON OF MITSUHIDE

FROM THE YEHON TAIKO-KI.

(Continued from last Saturday.)

SHIODEN GAVE CHASE, but Hideyoshi had a fair start. Running at full speed, Shioden stumbled over stones and through cornfields. Suddenly Kato Kiyomasa appeared, blocking his way. The two warriors grappled and fought. For some time neither could gain an advantage. Then, after several minutes Kiyomasa made a thrust that caught Shioden off guard, and the latter went down like a log.

Kiyomasa's only thought now was of his chief. Hideyoshi had penetrated into the forest some distance away. He was nowhere to be seen.

V.

SEVERAL DAYS after he had caused Nobunaga's murder, Mitsuhide took possession of Kyoto and the neighboring provinces. He induced the Emperor to make him Shogun, and declared his authority throughout the land. Selecting Myoshinji Temple at the capital as his headquarters, he made elaborate preparations to defend himself against an attack by Hideyoshi.

Satsuki, the elderly mother of Mitsuhide, was filled with regret at his heinous crime and an intense hatred of her son sprang up in her heart. She refused to live in the same home with him. Finally, despite the opposition of her family, she left the temple, in the garb of an humble Buddhist pilgrim.

Going to Amagasaki, Satsuki rented a small house. She led there a life of solitude, passing day and night in devotion, prayers and the perusal of the sutras. Mitsuhide kept her constantly supplied with money and provisions.

Misao, Mitsuhide's wife, called one day at Satsuki's cottage, accompanied by Hatsugiku, fiancee of her son Jujiro, to inquire after her health. Heartily the old woman received them. She asked if Jujiro still was safe at headquarters.

"Yes," answered Misao. "He wishes very much to participate in today's battle, to cover himself with glory. He has obtained permission from his father, but his sense of duty is such that he will not go unless he obtains yours also. He has begged me to ask your consent. Are you willing to allow him to go to war, mother?"

GRANDMOTHER IS OVERJOYED.

"Jujiro's idea is splendid!" the old lady cried, bursting into tears. "I cannot understand how a real samurai such as Jujiro could possibly have been born the son of such a vile wretch as Mitsuhide. Willingly shall I grant his request."

A Buddhist priest wearing sandals and carrying something on his back wrapped in a furoshiki, knocked at the door.

"I am on a pilgrimage to temples in different provinces," he explained. "Would it be asking too great a favor to beg of you to give me lodging for the night?"

"It is poor accommodation I can offer you," the old woman answered. "But you certainly are welcome to such as I have."

Thanking the old lady, the priest entered and began at once to untie his sandals. Misao and Hatsugiku fetched him a tub of water wherewith to wash his feet.

"Please do not put yourselves to such trouble," protested the priest. A traveling pilgrim always has to do everything for himself. I sleep soundly anywhere, if it is only the corner of a shed. I need neither mosquito net nor bedding. Will you please leave me to myself, and—"

"There is a bathroom beside the entrance," the old lady said. "Luckily the bathtub is filled with water. You are at liberty to light the fire and warm water for your bath. I shall take a bath when you have finished."

"Gladly will I that," returned the priest.

JAPANESE NOBLEMAN'S DREAM.

By DR. E. A. STURGE.

IN YOUTH there came to me an awful dream,
Which left its impress on my later years;
To me, in that night-vision it did seem
I wandered in the gloomy vale of tears;
The path was wet and slimy; on each side
Were pitfalls, yawning like the mouths of hell;
And pretty soon my feet began to slide
From under me, and into one I fell;
I landed at the bottom of the pit,
Which seemed a den of foul and hissing snakes.
The writhing reptiles at each other bit,
At every thought of which my spirit quakes;
There seemed to be one way of getting out,
And that was furnished by a sturdy vine,
Which from above sent down a section stout,
And seizing this, I soon began to climb;
On lifting up my eyes, I saw a rat
Engaged in gnawing at my living rope;
I knew my danger, but I argued that
I would have time, and so was full of hope;
When half way up I saw, to my surprise,
Some luscious fruit dependent from the vine;
It seemed so sweet and tempting to my eyes,
I gathered some, and thus delayed a time.
But while I stopped, the vine was cut in twain
By that vile rodent, with his chisel teeth,
And down I tumbled in the pit again;
And gone were now all chances of relief.
I woke, the sweat was standing on my brow,
Which came from horror of that awful dream;
The dreadful vision haunts me even now;
I tried to reason out what it might mean;
I plainly saw that if I wished to climb
To higher places in life's rugged way,
I must not stop and waste my precious time,
Though pleasure tempt me with her fruit to stay.
So for my life I made a stringent rule,
When urged to taste her fruit, to answer,
* "No!"
In doing this I have not played the fool,
But reached a high position, as you know.

Soon after he had retired to the bathroom Jujiro arrived. He was accompanied by a retainer carrying his armor chest. The young samurai planned to start for the field of battle from his grandmother's dwelling.

"I am very glad to see you looking so well, grandmother mine," said the young warrior, bowing ceremoniously. "Will you grant the request mother communicated to you for me?"

JUJIRO'S REQUEST GRANTED.

"How glad I am to see you, Jujiro!" Satsuki replied, almost overcome with joy. "Of course I shall permit you to join the battle! Hatsugiku fortunately is here, so it is my ardent desire that you set out at once for your first battle. Your joy, my dear girl, must be very great. I shall bring some *sake* at once, in order that you may exchange the nuptial cups."

Hatsugiku blushed crimson. Her joy was boundless. But Jujiro sat in silence. He knew his father's army was foredoomed to extinction; he had resolved to die fighting bravely. He pitied his grandmother and his financee, ignorant of his determination, in such high spirits. Satsuki, Misao and Hatsugiku went into the kitchen to prepare the *sake* and arrange the cups and other things necessary for the marriage ceremony.

(To be continued.)

By SOSEKI NATSUME.

(Translated by a Japanese Schoolboy.)

GREAT FRIEND of impotent masters teheed right out loudly. The important marster was engulfed in situation and gazing at his friend and Mrs. Nosey.

"If I understand o. k.'ly," saying she, "my husband had beseached Balon Makiyama about the marriage of our own daughter."

The great friend answered somewhat suplised about information:

"Oh, is that SO?"

"Really," go on Mrs. Nosey, "there are so many ploposals from many quarters but a fambly with our station can't make the hasty decisions and give. our plecious daughter away to commonalities."

"That are right, to be sure," iterate great fiend returning to the peace of mind.

"And so," continuation Mrs. Nosey, "I are just dropped in to have some information on subject," turning to intricate master. Her manners of speach had became wulger again. The infinite master has no balon among his relatives, you should know if you don't.

"I understands," insinuate Mrs. Nosey, "that somebody of name Mr. Coldmoons is a frequent wisitor at your lesidence. I'd be much obliged to know what kind of mans he are."

"What is big idear about asking about this Cold Moon party," the impatient masters crosses her question unpleasantry. The insipient masters friend spuns his blain quickly and say:

"For some reasons. That is to spreak you wish to know about personality of Cold Moons because your daughter is of marriagable?"

"If," insist Mrs. Nosey, "I can learn about him I shall be very, very, very glateful——"

HERE'S A FLABBERGASTER.

"Then you want to give daughter away to Cold Moons?"

"Not," exasperate Mrs. Nosey, "exactly. That is to say, I don't mean to speak that as the desire of us." Mrs. Nosey here beat impeccable master.

"There," exaggerate Mrs. Nosey, "are so many ploposals, and we don't by no means intend to rush her to this party."

"If that being the case," agitate improbable master, "you don't need to ask anything about this hear Cold Moon."

"But," fence Mrs. Nosey, "there can't be no reason why you should so cling to informations." Mrs. Nosey, she speaks warlikely.

Gleat friend were holding his silver pipe how wresterlers umpire holds fans and inwardly was thinking who the deuce is going to get best and who worst of werbal combats.

The implacable masters began frontal attack of adversally. He say:

"Then has Cold Moon ploposed to daughter?"

"Not," back up Mrs. Nosey, "exactory. But——"

"Do you dream he wishes to mally her?" continue inveterate master his newly discobered tactics of frontlike attack.

"Talk," expound Mrs. Nosey, "has not went that far—yet—but Mr. Cold Moons won't be in such bad or infortunate condition of mind if he hears tell about the match." She were keeping her ground near to rope.

"Has Cold Moons making love to girlie?" Incordinate master puts his chest out like to spreak: "if you know tell us fair."

"That," lespond Mrs. Nosey, "is about right observation. She ain't nowise disturbed.

GREAT FRIEND INTERESTED.

Hitherto great friend maintain strategical position of an empire but now his intelest somehow seamed gleatly arisen. Lifting silver pipe he announce gleefully:

"Did this Cold Moons send love billets to daughter? Ain't that fine! This here is one more episode enriching our warehouse of gossip."

"It," interlard Mrs. Nosey, "ain't so mild as sending of love lotters. Far more intenser. You don't know a thing about it yet." She twist around nallative.

"Do YOU know?" Ignorant master ask of fiend bewitchingly.

Great fiend assume foolish attitrudes and argue:

"Search me! If there's anyone who knows it be you."

"Why," insist Mrs. Nosey, "both on you should know about it." She say ploudly.

"You don't mention it," opined both of them, and they were struck.

"If," anticipate Mrs. Nosey, "you lost from your memoly I don't mind relating to you about it now. At near end of last year there was concerts at Mrs. Abe in Mukojima to which Mr. Cold Moon attended. On return home there happen somethings on Azuma Bridge—but I shan't repeat incidents now because it will be emballasing to Mr. Cold Moons. With that much ploof in our hands it's plenty. How are that?"

She spreaded her diamonded finger on her laps and held her head up so elect. Her great nose became the commander of the situation once more. And the inherent master and his great fiend lost in atmosphear, alas.

It seamed the indelicate master and his the great fiend both lost the courage and stupidfied for some minute. They were like men who cured to argify. As they regained their equilibriums both on 'em burst into laughter. It was a great lark to both of 'em. It was moreover entirely unexpected receptions to Mrs. Nosey. Truly, she think, it were very rude of them, and glared at them.

"Was that your respectable daughter? Why, ain't that good? Just as you said it. Isn't that so, Mr. Kashami? Truly Mr. Cold Moons do be in love with your daughter. Why, it ain't no use at all to conceal it from the lady. Let's go on and tell her all about it—we know."

MASTER VERY TALKATIVE.

The intrepid marster say: "Hum." That were every bit he spreak. Mrs. Nosey say self-complacentlike:

"Really, y' know, it ain't no use trying to hide it. We have ebery clues necessary to prove the incident."

"Yerss, you are right, I should duplicate," intensify great friends. "We will tell you all we know about Cold Moons for your reference. Oh, says Mr. Kushami, you know, you are hosts, yet you don't do nothing but smile and grin. It's no way to act, I imagine. Truly what we think a secrets do be turrible. How careful we guard it, she leaks out from somewhere someway somehow sort of. But—it's str-range. Mrs. Koneda, mam, how did you dug up secret? It's the wanderful!" went on the great fiend monopolizing situations.

Mrs. Nosey were ploud.

"Course," says Mrs. Nosey, "we don't keep all our wits on shelf, we don't."

(Mrs. Nosey she say more next Sattidy.)